

福島大学理工学群共生システム理工学類

学生の確保の見通し等を記載した書類

別添資料 目次

資料 1	2030 年の IT 人材の需給ギャップ（経済産業省委託事業調査結果）	2
資料 2	2030 年の先端 IT 人材の需給ギャップ（経済産業省委託事業調査結果）	3
資料 3	IT 人材の量・質の不足感（独立行政法人情報処理推進機構調査結果）	4
資料 4	教育未来創造会議第一次提言（概要）	5
資料 5	デジタル田園都市国家構想基本方針（概要）	7
資料 6	福島県デジタル変革（DX）推進基本方針（概要）	8
資料 7	福島大学理工学群共生システム理工学類 入学意向アンケート調査報告書	9
資料 8	近隣 5 県の 18 歳人口推計	25
資料 9	福島県の大学進学者数及び大学進学率の推計	28
資料 10	福島県内大学への入学者数上位 5 県（出身高校の所在地別：直近 5 年間）	29
資料 11	競合校の入学志願及び定員充足状況（直近 5 年間）	31
資料 12	既設学科等の入学定員の充足状況（全入試区分：直近 5 年間）	32
資料 13	共生システム理工学類一般選抜（前期・後期日程）における入学志願状況等（直近 5 年間）	33
資料 14	福島大学理工学群共生システム理工学類 採用意向アンケート調査報告書	34

資料1 2030年のIT人材の需給ギャップ(経済産業省委託事業調査結果)



出典: 経済産業省委託事業「平成30年度我が国におけるデータ駆動型社会に係る基盤整備(IT人材等育成支援のための調査分析事業)」より、「IT人材需給に関する調査」調査報告書(2019年3月)

資料2 2030 年の先端 IT 人材の需給ギャップ(経済産業省委託事業調査結果)

表 3-14 2030 年時点の先端 IT 人材・従来型 IT 人材の需給ギャップ (生産性上昇率 0.7%)

IT 需要の伸び		IT 人材需給ギャップ	
Re スキル率 (1.0%固定)		従来型 IT 人材	先端 IT 人材
IT 需要の伸び「低位」	1%	△22.0 万人	38.4 万人
IT 需要の伸び「中位」	2～5%	△9.7 万人	54.5 万人

無印：需要数＞供給数、△：供給数＞需要数

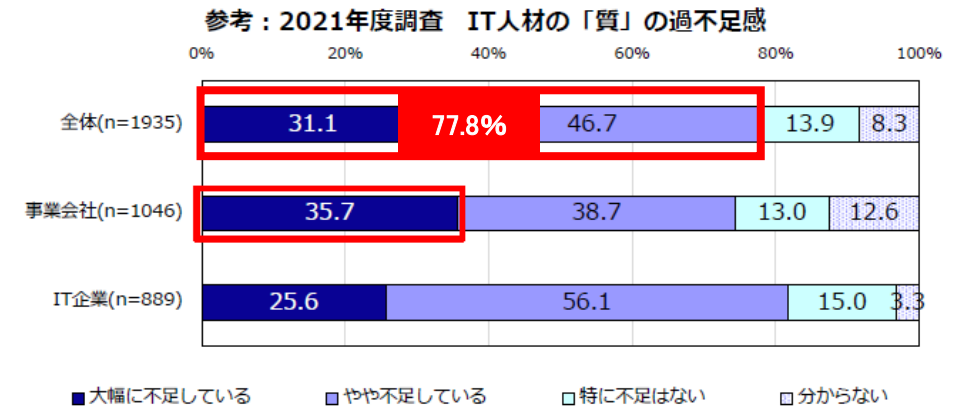
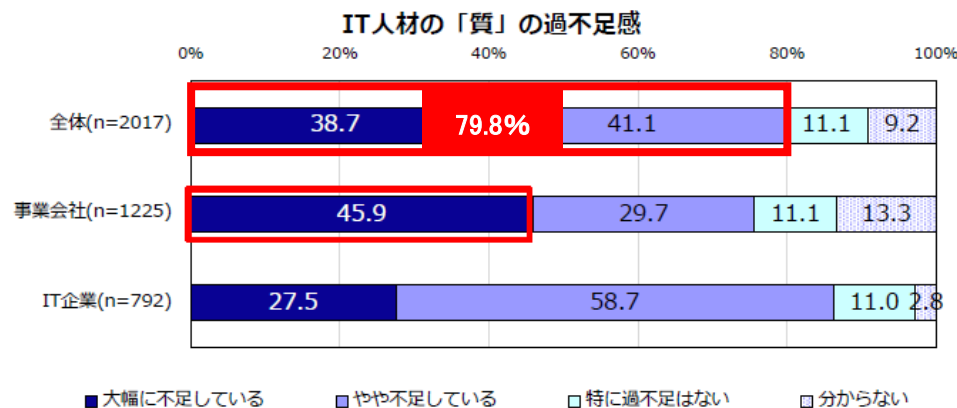
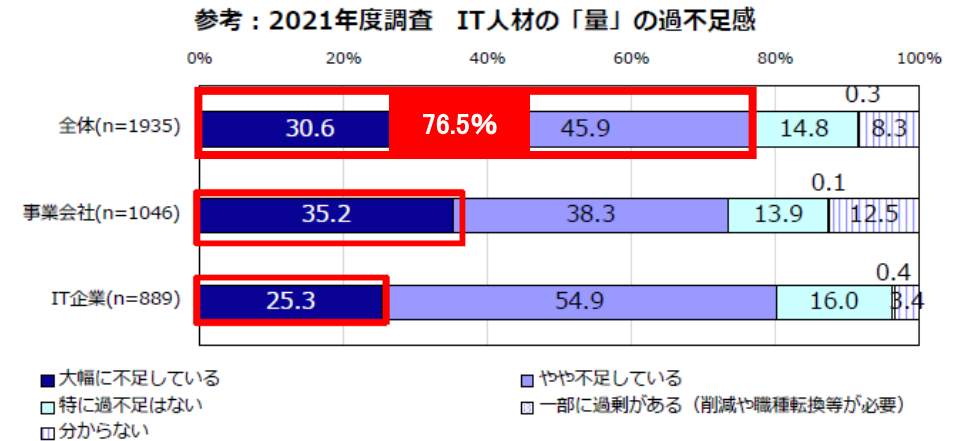
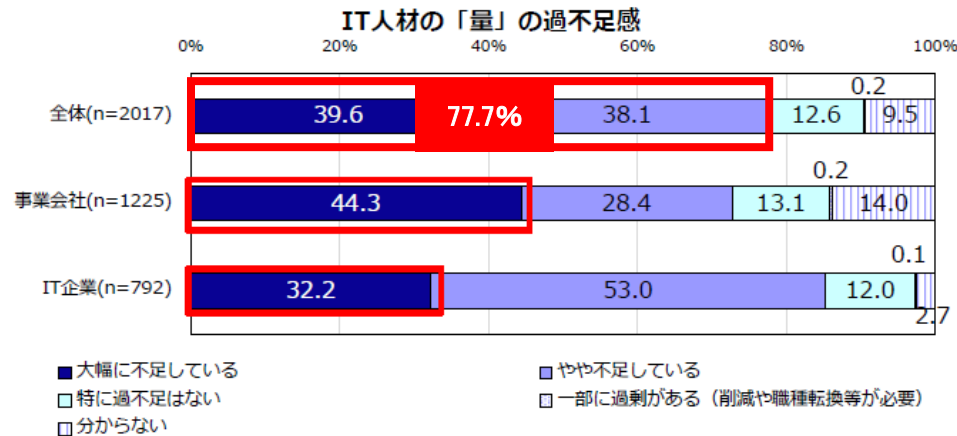
(出所) 試算結果をもとにみずほ情報総研作成

出典：経済産業省委託事業「平成30年度我が国におけるデータ駆動型社会に係る基盤整備(IT人材等育成支援のための調査分析事業)」より、「IT人材需給に関する調査」調査報告書(2019年3月)

資料3 IT人材の量・質の不足感(独立行政法人情報処理推進機構調査結果)

IT人材の量・質の不足感

- ◆事業会社ではIT人材が量的にも質的にも「大幅に不足している」と回答した企業が2021年度調査から増加している。
- ◆IT企業では量的に大幅な不足を回答する企業は増加しているが、質的な不足の回答では変化が少ない。



出典：独立行政法人情報処理推進機構「デジタル時代のスキル変革等に関する調査(2022年度)」企業調査報告書

資料4 教育未来創造会議第一次提言(概要)

我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について

教育未来創造会議 第一次提言

人材育成を 取り巻く課題

- ・高等教育の発展と少子化の進行（18歳人口は2022年からの10年間で9%減少）
- ・デジタル人材の不足（2030年には先端IT人材が54.5万人不足）
- ・グリーン人材の不足
（2050カーボンニュートラル表明自治体のうち、約9割が外部人材の知見を必要とする）
- ・高等学校段階の理系離れ（高校において理系を選択する生徒は約2割）
- ・諸外国に比べて低い理工系の入学者
（学部段階：OECD平均27%、日本17%、うち女性：OECD平均15%、日本7%）
- ・諸外国に比べ少ない修士・博士号の取得者
（100万人当たり修士号取得者：英4,216人、独2,610人、米2,550人、日588人
博士号取得者：英375人、独336人、韓296人、日120人）
- ・世帯収入が少ないほど低い大学進学希望者
- ・諸外国に比べて低調な人材投資・自己啓発
（社外学習・自己啓発を行っていない個人の割合は、諸外国が2割を下回るのに対し、我が国は半数近く）
- ・進まないリカレント教育

基本理念

- ・日本の社会と個人の未来は教育にある。教育の在り方を創造することは、教育による未来の個人の幸せ、社会の未来の豊かさの創造につながる。
- ・人への投資を通じた「成長と分配の好循環」を教育・人材育成においても実現し、「新しい資本主義」の実現に資する。

在りたい 社会像

- ◎ 一人一人の多様な幸せと社会全体の豊かさの実現（ウェルビーイングを実現）
- ◎ ジェンダーギャップや貧困など社会的分断の改善
- ◎ 社会課題への対応、SDGsへの貢献（国民全体のデジタルリテラシーの向上や地球規模の課題への対応）
- ◎ 生産性の向上と産業経済の活性化
- ◎ 全世代学習社会の構築



目指したい人材育成

◎ 未来を支える人材像

好きなことを追究して高い専門性や技術力を身に付け、自分自身で課題を設定して、考えを深く掘り下げ、多様な人とコミュニケーションをとりながら、新たな価値やビジョンを創造し、社会課題の解決を図っていく人材

<高等教育で培う資質・能力>

リテラシー/論理的思考力・規範的判断力/課題発見・解決能力/未来社会を構想・設計する力/高度専門職に必要な知識・能力

◎ 今後特に重視する人材育成の視点 ⇒ 産学官が目指すべき人材育成の大きな絵姿の提示

- ・ 予測不可能な時代に必要な文理の壁を超えた普遍的知識・能力を備えた人材育成
- ・ デジタル、人工知能、グリーン（脱炭素化など）、農業、観光など科学技術や地域振興の成長分野をけん引する高度専門人材の育成
- ・ 現在女子学生の割合が特に少ない理工系等を専攻する女性の増加（現在の理工系学生割合：女性7%、男性28%）
- ・ 高い付加価値を生み出す修士・博士人材の増加
- ・ 全ての子供が努力する意思があれば学ぶことができる環境整備
- ・ 一生涯、何度でも学び続ける意識、学びのモチベーションの涵養
- ・ 年齢、性別、地域等にかかわらず誰もが学び活躍できる環境整備
- ・ 幼児期・義務教育段階から企業内までを通じた人材育成・教育への投資の強化

現在35%にとどまっている自然科学（理系）分野の学問を専攻する学生の割合についてOECD諸国で最も高い水準である5割程度を目指すなど具体的な目標を設定

→ 今後5～10年程度の期間に集中的に意欲ある大学の主体性を生かした取組を推進

1. 未来を支える人材を育む大学等の機能強化



(1) 進学者のニーズ等も踏まえた成長分野への大学等再編促進・産学官連携強化

① デジタル・グリーン等の成長分野への再編・統合・拡充を促進する仕組み構築

- ・大学設置に係る規制の大胆な緩和（専任教員数や校地・校舎の面積基準、標準設置経費等）
- ・再編に向けた初期投資（設備等整備、教育プログラム開発等）や開設年度からの継続的な支援（複数年度にわたり予見可能性を持って再編に取り組めるよう継続的な支援の方策等を検討）
- ・教育の質や学生確保の見通しが十分でない大学等の定員増に関する設置認可審査の厳格化
- ・私学助成に関する全体の構造的な見直し（定員未充足大学の減額率の引き上げ、不交付の厳格化等）
- ・計画的な規模縮小・撤退等も含む経営指導の徹底
- ・修学支援新制度の機関要件の厳格化（定員充足率8割以上の大学とする等） 等

② 高専、専門学校、大学校、専門高校の機能強化

- ・産業界や地域のニーズも踏まえた高専や専攻科の機能強化（デジタルなどの成長分野における定員増等）
- ・専門学校や高専への改編等も視野に入れた専門高校の充実 等

③ 大学の教育プログラム策定等における企業・地方公共団体の参画促進

④ 企業における人材投資に係る開示の充実

⑤ 地方公共団体と高等教育機関の連携強化促進

⑥ 地域における大学の充実や高等教育進学機会の拡充

⑦ 地域のニーズに合う人材育成のための産学官の連携強化（半導体、蓄電池）



(2) 学部・大学院を通じた文理横断教育の推進と卒業後の人材受入れ強化

① STEAM教育の強化・文理横断による総合知創出

- ・文理横断の観点からの入試出題科目見直し
- ・ダブルメジャー、レイトスペシャライゼーションを推進するためのインセンティブ付与（教学マネジメント指針の見直し、設置認可審査や修学支援新制度の機関要件の審査での反映、基盤的経費配分におけるメリハリ付け等） 等

② 「出口での質保証」の強化

- ・設置基準の見直しなど、ST比（教員一人当たりの学生数）の改善による教育体制の充実 等

③ 大学院教育の強化

- ・トップレベルの研究型大学における学部から大学院への学内資源（定員等）の重点化 等

④ 博士課程学生向けジョブ型研究インターンシップの検証等

⑤ 大学等の技術シーズを活かした産学での博士課程学生の育成

⑥ 企業や官公庁における博士人材の採用・任用強化



(3) 理工系や農学系の分野をはじめとした女性の活躍推進

① 女性活躍プログラムの強化

- ・女子学生の確保等に積極的に取り組む大学への基盤的経費による支援強化
- ・大学ガバナンスコードの見直し、女性の在籍・登用状況等の情報開示の促進 等

② 官民共同修学支援プログラムの創設

③ 女子高校生の理系選択者の増加に向けた取組の推進



(4) グローバル人材の育成・活躍推進

① コロナ禍で停滞した国際的な学生交流の再構築

② 産学官を挙げてのグローバル人材育成

- ・民間企業の寄附を通じて意欲ある学生の留学促進を行う「トビタテ！留学JAPAN」の発展的推進 等

③ 高度外国人材の育成・活躍推進

④ 高度外国人材の子供への教育の推進

- ・インターナショナルスクールの誘致等推進 等



(5) デジタル技術を駆使したハイブリッド型教育への転換

① 知識と知恵を得るハイブリッド型教育への転換促進

- ・オンライン教育の規制緩和と特例の創設 等

② オンラインを活用した大学間連携の促進

③ 大学のDX促進

- ・デジタル技術やマイナンバーカードの活用促進 等



(6) 大学法人のガバナンス強化

① 社会のニーズを踏まえた大学法人運営の規律強化

- ・理事と評議員の兼職禁止、外部理事数の増、会計監査人による会計監査の制度化 等

② 世界と伍する研究大学の形成に向けた専門人材の経営参画の推進

- ・「国際卓越研究大学」における自律と責任あるガバナンス体制確立 等

③ 大学の運営基盤の強化



(7) 知識と知恵を得る初等中等教育の充実

① 文理横断教育の推進

- ・高校段階の早期の文・理の学習コース分けからの転換 等

② 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な取組の推進

③ 課題発見・解決能力等を育む学習の充実

④ 女子高校生の理系選択者の増加に向けた取組の推進【再掲】

⑤ 子供の貧困対策の推進

⑥ 学校・家庭・地域の連携・協働による教育の推進

⑦ 分権型教育の推進

⑧ 在外教育施設のエデュケーション環境整備の推進

資料5 デジタル田園都市国家構想基本方針(概要)

2-3. 構想実現に向けた取組方針（デジタル人材の育成・確保）

◎重要業績評価指標（KPI）

- ・2026年度末までに、デジタル推進人材230万人育成を目指す。

- デジタル田園都市国家構想を実現するため、全ての労働人口がデジタルリテラシーを身に付け、デジタル技術を活用できるようにするとともに、専門的なデジタル知識・能力を有し、デジタル実装による地域の課題解決を牽引する人材を「デジタル推進人材」として、2026年度末までに230万人育成を目指す。加えて、「デジタル人材地域還流戦略パッケージ」に基づき、人材の地域への還流を促進する。また、「女性デジタル人材育成プラン」に基づく取組を推進する。

①デジタル人材育成プラットフォームの構築

- ・デジタルスキル標準の設定
 - 全ビジネスパーソン向け共通に求められる学びの指針となる「DXリテラシー標準」を本年3月末に作成。
 - 年内に、DX推進人材向けのデジタルスキル標準を作成。
- ・デジタルスキル標準に紐づける形での教育コンテンツの整備
 - 民間事業者や大学等が提供する様々な教育コンテンツを提示。
- ・地方におけるDX促進活動支援
 - 地域の企業・産業のDXに必要なデジタル人材を育成・確保すべく、実践的な学びの場の提供等を実施。

②職業訓練のデジタル分野の重点化

- ・公共職業訓練、求職者支援訓練、教育訓練給付におけるデジタル分野の重点化
 - IT分野の資格取得を目指す訓練コースの訓練委託費等の上乗せ等によりデジタル分野の重点化を実施。
- ・人材開発支援助成金の拡充
 - IT技術の知識・技能を習得させる訓練を高率助成に位置づけること等によりデジタル人材の育成を推進。
- ・3年間で4000億円規模の施策パッケージの創設による人材育成等の推進
 - 人材開発支援助成金や教育訓練給付とも連携して、企業や労働者のニーズに合ったデジタル人材の育成・確保の取組を実施。

③高等教育機関等におけるデジタル人材の育成

- ・数理・データサイエンス・AI教育の推進
 - 大学・高専における数理・データサイエンス・AI教育のうち、優れた教育プログラムを国が認定することで取組を促進。
 - 全国の大学等による「数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム」を形成し、各地域ブロックの代表校を中心に、各地域における数理・データサイエンス・AI教育を促進。
- ・リカレント教育の推進
 - 大学・専門学校等が自治体や企業等と連携してDXなど、成長分野に関してリテラシーレベルの能力取得・リスクリングを実施。

④デジタル人材の地域への還流促進

- ・「デジタル人材地域還流戦略パッケージ」に基づき、人材の地域への還流を促進

出典：内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局「デジタル田園都市国家構想基本方針について」より抜粋

資料6 福島県デジタル変革(DX)推進基本方針(概要)

第3 基本的な考え方

1 基本理念

県政のあらゆる分野において、従来の仕組みや仕事の進め方を、既成概念にとらわれず、県民目線で見直すとともに、デジタル技術やデータを効果的に活用し、新たな価値を創出することで、復興・再生と地方創生を切れ目なく進め、県民一人一人が豊かさや幸せを実感できる県づくりを実現する。

2 基本目標

行政のデジタル変革(DX)

- 職員の意識改革と行動変容
- デジタル県庁の実現

【市町村支援・連携】

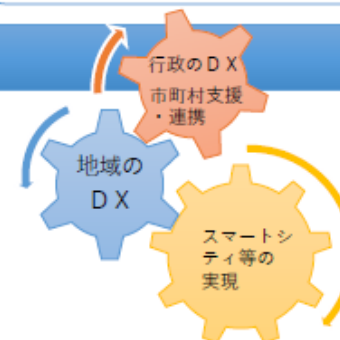
- 地域課題の解決等に向けたDX推進
- 個々の実情に応じた伴走支援
- スマートシティ等の取組支援

地域のデジタル変革(DX)

- 県民、企業等へのDXの浸透
- DXから県民、企業等を取り残さない
- スマートシティ等の取組と結び付け

3 デジタル変革(DX)の進め方

- | | | |
|-------|-------------------|------------|
| ステップ1 | ● 行政のDXの推進 | ● 市町村支援・連携 |
| ステップ2 | ● 地域のDXの推進 | |
| ステップ3 | ● スマートシティ等の実現・横展開 | |



出典:「福島県デジタル変革(DX)推進基本方針」より抜粋

福島大学

理工学群 共生システム理工学類

入学意向アンケート調査報告書

令和6年2月20日

株式会社高等教育総合研究所

目 次

1. 入学意向アンケート調査 概要.....	3
2. 入学意向アンケート調査 集計結果.....	4
3. 入学意向アンケート調査 結果の要点.....	10
4. 配布資料.....	13

1. 入学意向アンケート調査 概要

調査目的	福島大学 理工学群 共生システム理工学類（入学定員 200 人・2025 年度定員増予定）における志願者・入学者等の学生確保の見込みを測定することを目的とする。
調査対象	調査対象：2025 年 3 月に高校卒業予定である高校 2 年生 調査地域：主たる学生募集エリアと想定される福島県を中心とした高等学校等 72 校から調査の協力を得た。
調査内容	・回答者の基本情報（居住地・性別） ・卒業後の進路 ・学校の設置者種別 ・興味のある学問分野 ・福島大学 理工学群 共生システム理工学類への興味・関心 ・福島大学 理工学群 共生システム理工学類への受験・入学意志（すべて選択肢式）
調査時期	2023 年 12 月～2024 年 2 月
調査方法	調査実施の了承が得られた高校に対しアンケート用紙を送付し、各校の教職員の監督のもと、高校において実施した。
回収件数	有効回答数：6,955 件（72 校）
調査結果	[受験意志] 予定する入学定員 200 人に対し、874 人（全体の 12.6%）が受験意志（第一志望～第三志望以降を含む）を示した。 [入学意志] 受験意志を示した回答者（874 人）のうち 230 人（受験意志を示した回答者の 26.3%）が入学意志を示した。

2. 入学意向アンケート調査 集計結果

※「構成比」(%) はいずれも、小数点第二位を四捨五入。そのため必ずしも 100.0% と一致しない。

あなたの現在のお住まいをお答えください。

選択肢	回答数	構成比
北海道	0	0.0%
青森県	0	0.0%
岩手県	0	0.0%
宮城県	871	12.5%
秋田県	1	0.0%
山形県	252	3.6%
福島県	4,442	63.9%
茨城県	311	4.5%
栃木県	1,048	15.1%
群馬県	4	0.1%
埼玉県	1	0.0%
千葉県	0	0.0%
東京都	0	0.0%
神奈川県	2	0.0%
新潟県	1	0.0%
富山県	0	0.0%
石川県	0	0.0%
福井県	1	0.0%
山梨県	0	0.0%
長野県	0	0.0%
岐阜県	0	0.0%
静岡県	0	0.0%
愛知県	0	0.0%
三重県	0	0.0%
滋賀県	0	0.0%
京都府	1	0.0%
大阪府	0	0.0%
兵庫県	0	0.0%
奈良県	0	0.0%
和歌山県	0	0.0%
鳥取県	0	0.0%
島根県	0	0.0%
岡山県	0	0.0%
広島県	0	0.0%

山口県	0	0.0%
徳島県	1	0.0%
香川県	0	0.0%
愛媛県	0	0.0%
高知県	0	0.0%
福岡県	0	0.0%
佐賀県	0	0.0%
長崎県	0	0.0%
熊本県	1	0.0%
大分県	0	0.0%
宮崎県	0	0.0%
鹿児島県	0	0.0%
沖縄県	0	0.0%
無回答	18	0.3%
合計	6,955	100.0%

あなたの性別をお答えください。

選択肢	回答数	構成比
男性	3,889	55.9%
女性	2,796	40.2%
回答しない	198	2.8%
無回答	72	1.0%
合計	6,955	100.0%

問1 あなたは、卒業後の進路をどのように考えていますか。現在検討している進路すべてにマークしてください。（複数選択可能）

NO	選択肢	回答数	回答率
1	大学	5,226	75.1%
2	短期大学	260	3.7%
3	専門職大学	221	3.2%
4	専門職短期大学	93	1.3%
5	専門学校	1,042	15.0%
6	就職	940	13.5%
7	その他	127	1.8%

※複数回答項目のため、「回答率」＝「回答数」／回答者数（6,955）

問2 は問1 で①～④を選択した 5,800 件 が対象

問2 志望する大学の設置者の希望を選択してください。現在希望している設置者すべてにマークをしてください。（複数選択可能）

NO	選択肢	回答数	回答率
1	国立	3,709	63.9%
2	私立	2,382	41.1%
3	公立	1,928	33.2%

※複数回答項目のため、「回答率」＝「回答数」／回答者数（5,800）

問3 高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。興味のある学問分野すべてにマークをしてください。（複数選択可能）※現時点で進学を希望されていない方も進学する場合を想像してお答えください。

NO	選択肢	回答数	回答率
1	環境・エネルギー工学	389	5.6%
2	情報工学	1,116	16.0%
3	機械工学	973	14.0%
4	電気通信工学	639	9.2%
5	土木建築工学	531	7.6%
6	工学その他	204	2.9%
7	数学	421	6.1%
8	物理学	408	5.9%
9	化学	456	6.6%
10	生物	485	7.0%
11	地学	99	1.4%
12	理学その他	135	1.9%
13	文学	224	3.2%
14	史学	95	1.4%

15	哲学	141	2.0%
16	人文科学その他	121	1.7%
17	教育学	594	8.5%
18	体育学	342	4.9%
19	教育その他	93	1.3%
20	商船学	18	0.3%
21	医学	485	7.0%
22	歯学	124	1.8%
23	薬学	571	8.2%
24	看護学	779	11.2%
25	保健その他	816	11.7%
26	農学	453	6.5%
27	林学	57	0.8%
28	獣医学畜産学	180	2.6%
29	水産学	104	1.5%
30	農学その他	87	1.3%
31	法学・政治学	215	3.1%
32	商学経済学	560	8.1%
33	社会学	153	2.2%
34	社会科学その他	54	0.8%
35	家政学	58	0.8%
36	食物学	309	4.4%
37	被服学	70	1.0%
38	住居学	36	0.5%
39	家政その他	21	0.3%
40	美術	163	2.3%
41	デザイン	361	5.2%
42	音楽	252	3.6%
43	芸術その他	132	1.9%
44	教養学	70	1.0%
45	総合科学	37	0.5%
46	国際関係学	160	2.3%
47	人間関係科学	128	1.8%
48	その他	284	4.1%

※複数回答項目のため、「回答率」＝「回答数」／回答者数（6,955）

問 4

福島大学 理工学群 共生システム理工学類には以下のような特色があります。それぞれの特色についてあなたはどの程度魅力を感じますか。（それぞれ当てはまるもの1つにマーク）

1. 入学後に学び・相談しながら目指す専門分野を決められる

選択肢	回答数	構成比
とても魅力を感じる	2,429	34.9%
ある程度魅力を感じる	3,592	51.6%
あまり魅力を感じない	547	7.9%
まったく魅力を感じない	284	4.1%
無回答	103	1.5%
合計	6,955	100.0%

2. 学生の進路（就職・進学）に配慮した新たな4コース制

選択肢	回答数	構成比
とても魅力を感じる	2,125	30.6%
ある程度魅力を感じる	3,730	53.6%
あまり魅力を感じない	708	10.2%
まったく魅力を感じない	279	4.0%
無回答	113	1.6%
合計	6,955	100.0%

3. 自分の「得意」で挑戦できる入試

選択肢	回答数	構成比
とても魅力を感じる	3,220	46.3%
ある程度魅力を感じる	2,887	41.5%
あまり魅力を感じない	475	6.8%
まったく魅力を感じない	258	3.7%
無回答	115	1.7%
合計	6,955	100.0%

4. 「福島だから」復興・発展に貢献する自分を目指す

選択肢	回答数	構成比
とても魅力を感じる	1,619	23.3%
ある程度魅力を感じる	3,352	48.2%
あまり魅力を感じない	1,372	19.7%
まったく魅力を感じない	488	7.0%
無回答	124	1.8%
合計	6,955	100.0%

（報告書）P8

問5 あなたは福島大学 理工学群 共生システム理工学類の受験を希望しますか。次より1つ選択してください。

選択肢	回答数	構成比
① 第一志望として受験する	134	1.9%
② 第二志望として受験する	155	2.2%
③ 第三志望以降として受験する	585	8.4%
④ 受験しない	5,948	85.5%
無回答	133	1.9%
合計	6,955	100.0%

問6 は問5 で①～③を選択した

874 件 が対象

問6 福島大学 理工学群 共生システム理工学類を受験して合格した場合、入学を希望しますか。
次より1つ選択してください。

選択肢	回答数	構成比
① 入学する	230	26.3%
② 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	600	68.6%
③ 入学しない	38	4.3%
無回答	6	0.7%
合計	874	100.0%

3. 入学意向アンケート調査 結果の要点

要点1) 福島大学 理工学群 共生システム理工学類への受験意志

アンケート実施合計 6,955 人のうち、874 人（全体の 12.6％）（入学定員の 4.4 倍）より、受験意志（第一志望～第三志望以降）が示された。

第一志望として受験する	134 人	1.9%	874 人	12.6%
第二志望として受験する	155 人	2.2%		
第三志望以降として受験する	585 人	8.4%		

要点2) 福島大学 理工学群 共生システム理工学類への入学意志 (クロス集計)

受験意志を示した回答者のうち 230 人 (3.3%) が「入学意志」(問 6) に対して、「入学する」と回答した。

さらに「卒業後の進路」(問 1)、「学校の設置者種別」(問 2)、「興味のある学問分野」(問 3)、「受験意志」(問 5)、「入学意志」(問 6) の 5 重クロス集計を行ったところ、「大学」進学を希望し、「国立」を希望し、「環境・エネルギー工学、情報工学、機械工学、電気通信工学、工学その他、数学、物理学、化学、生物」のいずれかに興味を持ち、「受験意志 (第一志望～第三志望以降)」を持ち、「入学する」と回答した者は 138 人 (アンケート回答者全体の 2.0%) だった。この 138 人は、本学類への強い入学意志を持っていると考えられる。加えて、同様の 5 重クロス集計で『「第二志望として受験する」または「第三志望以降として受験する」』かつ「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」と回答した 408 人 (72 人+336 人) についても、相当数の入学者を見込むことができる。

回答者合計	【卒業後の進路】（問 1）	【学校の設置者種別】（問 2）	【学問分野】（問 3）	【受験意志】（問 5）	【入学意志】（問 6）
回答者合計 6,955 人 （％は全体 回答者に対 する割合）	「大学」 5,226 人 (75.1%)	「国立」 3,709 人 (53.3%)	環境・エネルギー工学、情報工学、機械工学、電気通信工学、工学その他 数学、物理学、化学、生物 2,014 人 (29.0%)	「第一志望として 受験する」 89 人 (1.3%)	「入学する」 81 人 (1.2%)
					「志望順位が上位の他の 志望校が不合格の場合に 入学する」 4 人 (0.0%)
				「第二志望として 受験する」 101 人 (1.5%)	「入学する」 29 人 (0.4%)
					「志望順位が上位の他の 志望校が不合格の場合に 入学する」 72 人 (1.0%)
				「第三志望以降と して受験する」 381 人 (5.5%)	「入学する」 28 人 (0.4%)
					「志望順位が上位の他の 志望校が不合格の場合に 入学する」 336 人 (4.8%)
		(上記以外)		受験する (第一志望～第 三志望以降) 303 人 (4.4%)	「入学する」 92 人 (1.3%)
					「志望順位が上位の他の 志望校が不合格の場合に 入学する」 188 人 (2.7%)

※表の面積は、回答者数を示す者ではない。

4. 配布資料



福島大学 理工学群 共生システム理工学類

構想中

令和7年度に入学定員の拡大（現在160名から200名へ）を構想しています。

学
類
の
概
要

設置場所：福島県福島市金谷川1
 修業年限：4年
 取得学位：学士（理工学）
 納付金※1：入学金 282,000円
 授業料 535,800円（年間）
 ※1 令和5年度時点の金額です
入学料・授業料の減免制度があります

取
得
で
き
る
資
格

高等学校教諭1種免許状（数学、理科、情報）※1
 中学校教諭1種免許状（数学、理科）※1
 学芸員・危険物取扱責任者（甲種）※2
 ※1 他学類開講科目の履修が必要な場合があります
 ※2 指定科目の単位を取得することで受験資格が得られます
各種資格試験の受験費用を補助する制度があります

共生システム理工学類（160名→200名）増員予定

（～R6）

- ◇数理・情報科学
- ◇物理・システム工学
- ◇経営システム
- ◇物質科学 ◇エネルギー
- ◇生物環境 ◇地球環境
- ◇社会計画 ◇心理・生理

➡

（R7～）

- ◇情報理工学
- ◇メカトロニクス
- ◇分子デザイン科学
- ◇環境システム

コースを再編し、情報領域を強化
 大学院進学を支援するプログラムを整備します

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度
 リテラシーレベル、応用基礎レベルの認定を受けています

4
つ
の
ポ
イ
ン
ト

★入学後に学び・相談しながら目指す専門分野を決められる理工

★学生の皆さんの夢（就職・進学）に有利な新4コース制（R7再編予定）

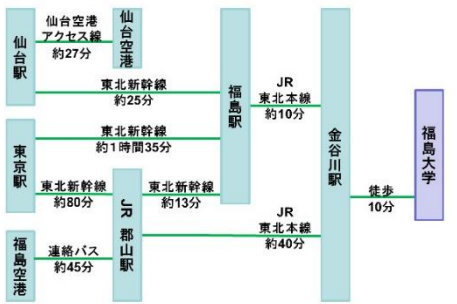
★自分の「得意」で挑戦できる入試
 一般選抜前期：2次試験「数学、物理、化学、生物から2科目選択」
 一般選抜後期：2次試験「面接のみ」
 学校推薦型選抜：大学入学共通テスト（数学・理科）＋面接
 総合型選抜：多様な受験資格＋「授業を聞いて、ノートを取り、考えを書く」新たなスタイル

★「福島だから」復興・発展に貢献する自分を目指す
 2011年の震災以降、技術者・研究者・起業家など「復興・発展に貢献しようとする人々」が
 全国・世界から集まる福島。大学生の時から、そんな人達と交流しながら学べる

近
隣
の
類
似
す
る
大
学

- 岩手大学 理工学部
- 東北学院大学 情報学部
- 山形大学 工学部
- 会津大学 コンピュータ理工学部
- 日本大学 工学部
- 茨城大学 工学部

交
通
ア
ク
セ
ス





めばえちゃん
 福島大学公式
 マスコットキャラクター

概要の内容は構想中であり、変更する場合があります。

情報理工学コース

理論から、システム開発、実践までバランスのとれた能力を有した情報人材を育成します。特に、現実の事象のモデリングや分析を支える数学のスキル、ソフトウェアの設計開発に不可欠なネットワークやデータベース、人工知能など情報科学のコア知識とプログラミングスキル、さらに、生産技術や物流などITの社会実装に必要な経営工学的な視野を備え、技術の変化に対応することのできる実践力を養います。

メカトロニクスコース

人々の生活を豊かにする新たな「技術」や「システム」の創出を担うために必要となる、ものごとの基礎的理解から分析・設計・シミュレーション・実装・検証までの能力を有する研究者・開発者を養成します。そのために、物理学・機械工学・電気工学・人間工学・生理学を基盤として、新機能を持つデバイスなどの要素技術や新たな測定手法や、ロボティクスや生体医工学における制御技術・数値シミュレーション・信号処理技術や人理解などの研究を通して、物・人・現象などのモデル化、システム設計、製作などの技術の体系的な学びを提供します。

分子デザイン科学コース

高機能・高付加価値で環境負荷の少ない新たな物質・材料を創製することができ、また、省エネ・創エネ・蓄エネの技術を開発できるなど、様々な専門技術者を養成します。そのために、「化学」を基盤とし、省資源・省エネルギーを常に意識しつつ、小分子レベルからナノレベル、バルクレベルでの物質・材料の製造方法を設計し評価することができ、未来を見据え発展的に新機能を探求し、水素等を用いる革新的エネルギー技術の開発、放射性物質や汚染土壌等への高度な分析技術の開発などにもチャレンジできる人材を育成します。

環境システムコース

地球科学、自然史、生物多様性など自然環境に関する専門知識に加え、社会環境や文化環境に関する幅広い理解と自然を含む社会システムを多面的に管理運営する能力を養います。世界や地域の自然災害の予測や防災、環境や生物の保全、持続可能な社会の構築に関して、実践的かつ技術的に対応できる人材、あるいはその教育・普及に専門的に携わることのできる人材を育成します。

設置の理念

共生システム理工学類は、「人—産業—環境」に関するシステム科学を「共生」の観点から系統的に学修する「理・工」教育を行い、21世紀型の課題ともいわれる人口減少・高齢化問題や環境・資源・エネルギー問題などに対し貢献できる人材養成を目的としています。

アドミッションポリシー

共生システム理工学類では、21世紀の社会が抱える諸課題に挑戦でき、人・産業・環境が共生する社会の構築に貢献できる人材を育成することを目標に掲げています。共生を科学する新しい教育・研究システムの下で、卒業までに、本学類のディプロマポリシーに示す能力を身につけたいと考える学生を受け入れます。

カリキュラムポリシー

共生システム理工学類では、「専門力」・「決定力」・「実践力」・「貢献力」を養うため、1年次には基盤教育と併せて学類共通領域科目を履修し、2年次よりコースに配属されコース領域科目を履修します。3年次後期に研究室に配属し、必修として演習と卒業研究を履修します。卒業研究により、専門性を確かなものとし、立案決定力や実践力を養成します。学問領域や文系理系の枠を超えた幅広い自由な学びを保障するため、自由選択領域を設けます。

ディプロマポリシー

本学類は、基礎的な理工学的知識を習得し、自ら専門性を高め、よりよい社会の構築に向けて専門性を活用できる理工系人材を養成するため、「専門力」「決定力」「実践力」「貢献力」の四つの能力の観点からディプロマポリシーを定めます。

- I 幅広い理工学的基础知識と確かな専門性
- II 論理的で的確な立案力と決定力
- III 学際的・国際的に実践する力
- IV 積極的かつ持続的な貢献意識



福島大学 理工学群 共生システム理工学類に関するアンケート

福島大学では、2025 年 4 月に「理工学群 共生システム理工学類」の入学定員の増員を構想中です。「リーフレット」をご覧の上、同学類への進学意向に関する調査にご協力をお願いします。なお、この調査の結果は、統計資料としてのみ使い、他の用途に使用することはありません。また、計画は予定であり、今後変更となる可能性があります。

※このアンケート調査は福島大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。

※本アンケートおよびリーフレットに記載されている内容については予定であり、変更される可能性があります。

記入要領	1. 回答は 所定の欄を塗りつぶ してください。	【記入例】 ☐ ① 大学 ☐ ② 短期大学
	2. この用紙は電算処理しますので汚さないようにしてください。	
	3. 記入は必ず 鉛筆及びシャープペンシル で濃く書いてください。	

名称	構想時期	入学定員	学位
福島大学 理工学群 共生システム理工学類	2025 年 4 月	200 名	学士（理工学）

◆最初にあなた自身についてお聞きします。

あなたの現在のお住まいをお答えください。

☐ 北海道	☐ 茨城県	☐ 新潟県	☐ 静岡県	☐ 奈良県	☐ 徳島県	☐ 熊本県
☐ 青森県	☐ 栃木県	☐ 富山県	☐ 愛知県	☐ 和歌山県	☐ 香川県	☐ 大分県
☐ 岩手県	☐ 群馬県	☐ 石川県	☐ 三重県	☐ 鳥取県	☐ 愛媛県	☐ 宮崎県
☐ 宮城県	☐ 埼玉県	☐ 福井県	☐ 滋賀県	☐ 島根県	☐ 高知県	☐ 鹿児島県
☐ 秋田県	☐ 千葉県	☐ 山梨県	☐ 京都府	☐ 岡山県	☐ 福岡県	☐ 沖縄県
☐ 山形県	☐ 東京都	☐ 長野県	☐ 大阪府	☐ 広島県	☐ 佐賀県	
☐ 福島県	☐ 神奈川県	☐ 岐阜県	☐ 兵庫県	☐ 山口県	☐ 長崎県	

あなたの性別をお答えください。

☐ 男性 ☐ 女性 ☐ 回答しない

在籍している高校名をお答えください。

高等学校・中等教育学校

◆高校卒業後の進路や、興味のある学びについてお聞きします。

問 1 あなたは、卒業後の進路をどのように考えていますか。現在検討している進路すべてにマークしてください。
(複数選択可能)

☐ ① 大学	☐ ③ 専門職大学	☐ ⑤ 専門学校	☐ ⑦ その他
☐ ② 短期大学	☐ ④ 専門職短期大学	☐ ⑥ 就職	

問 2 問 1 で①～④を選択した方に質問です。(※問 1 で①～④を選択しなかった方は問 3 に進んでください)
志望する大学等の設置者の希望を選択してください。現在希望している設置者すべてにマークをしてください。
(複数選択可能)

☐ ① 国立 ☐ ② 私立 ☐ ③ 公立

→裏面に続く

(報告書)P15

問3 高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。興味のある学問分野すべてにマークをしてください（複数選択可能）。※現時点で進学を希望されていない方も進学する場合を想像してお答えください。

工学		理学		人文科学		教育		保健	
☐ 0	環境・エネルギー工学	☐ 0	数学	☐ 0	文学	☐ 0	教育学	☐ 0	医学
☐ 0	情報工学	☐ 0	物理学	☐ 0	史学	☐ 0	体育学	☐ 0	歯学
☐ 0	機械工学	☐ 0	化学	☐ 0	哲学	☐ 0	教育その他	☐ 0	薬学
☐ 0	電気通信工学	☐ 0	生物	☐ 0	人文科学その他	商船		☐ 0	看護学
☐ 0	土木建築工学	☐ 0	地学			☐ 0	商船学	☐ 0	保健その他
☐ 0	工学その他	☐ 0	理学その他						
農学		社会科学		家政		芸術		その他	
☐ 0	農学	☐ 0	法学・政治学	☐ 0	家政学	☐ 0	美術	☐ 0	教養学
☐ 0	林学	☐ 0	商学・経済学	☐ 0	食物学	☐ 0	デザイン	☐ 0	総合科学
☐ 0	獣医学畜産学	☐ 0	社会学	☐ 0	被服学	☐ 0	音楽	☐ 0	国際関係学
☐ 0	水産学	☐ 0	社会科学その他	☐ 0	住居学	☐ 0	芸術その他	☐ 0	人間関係科学
☐ 0	農学その他			☐ 0	家政その他			☐ 0	その他

ここからはアンケートに同封しているリーフレットを見てからお答えください

問4 福島大学 理工学群 共生システム理工学類には以下のような特色があります。それぞれの特色についてあなたはどの程度魅力を感じますか。（それぞれ当てはまるもの1つにマーク）

	とても 魅力を感じ	ある程度 魅力を感じ	あまり 魅力を感じない	まったく 魅力を感じない
1. 入学後に学び・相談しながら目指す専門分野を決められる	☐ 0	☐ 0	☐ 0	☐ 0
2. 学生の進路（就職・進学）に配慮した新たな4コース制	☐ 0	☐ 0	☐ 0	☐ 0
3. 自分の「得意」で挑戦できる入試	☐ 0	☐ 0	☐ 0	☐ 0
4. 「福島だから」復興・発展に貢献する自分を目指す	☐ 0	☐ 0	☐ 0	☐ 0

問5 あなたは福島大学 理工学群 共生システム理工学類の受験を希望しますか。次より1つ選択してください。

- ☐ ① 第一志望として受験する
☐ ② 第二志望として受験する
☐ ③ 第三志望以降として受験する

☐ ④ 受験しない

問6 上記、問5で①～③を選択した方に質問です。福島大学 理工学群 共生システム理工学類を受験して合格した場合、入学を希望しますか。次より1つ選択してください。

- ☐ ① 入学する
- ☐ ② 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する
- ☐ ③ 入学しない

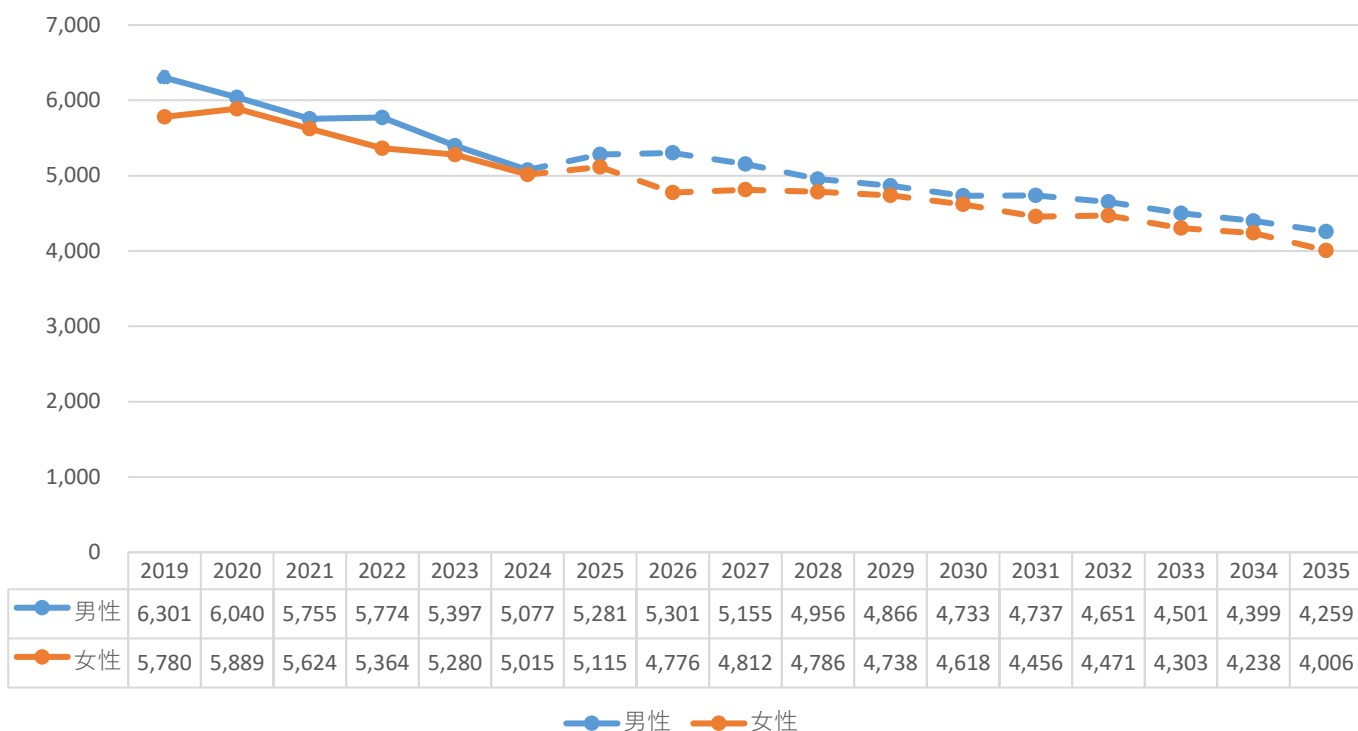
質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

資料8 近隣5県の18歳人口推計

岩手県

(単位:人)

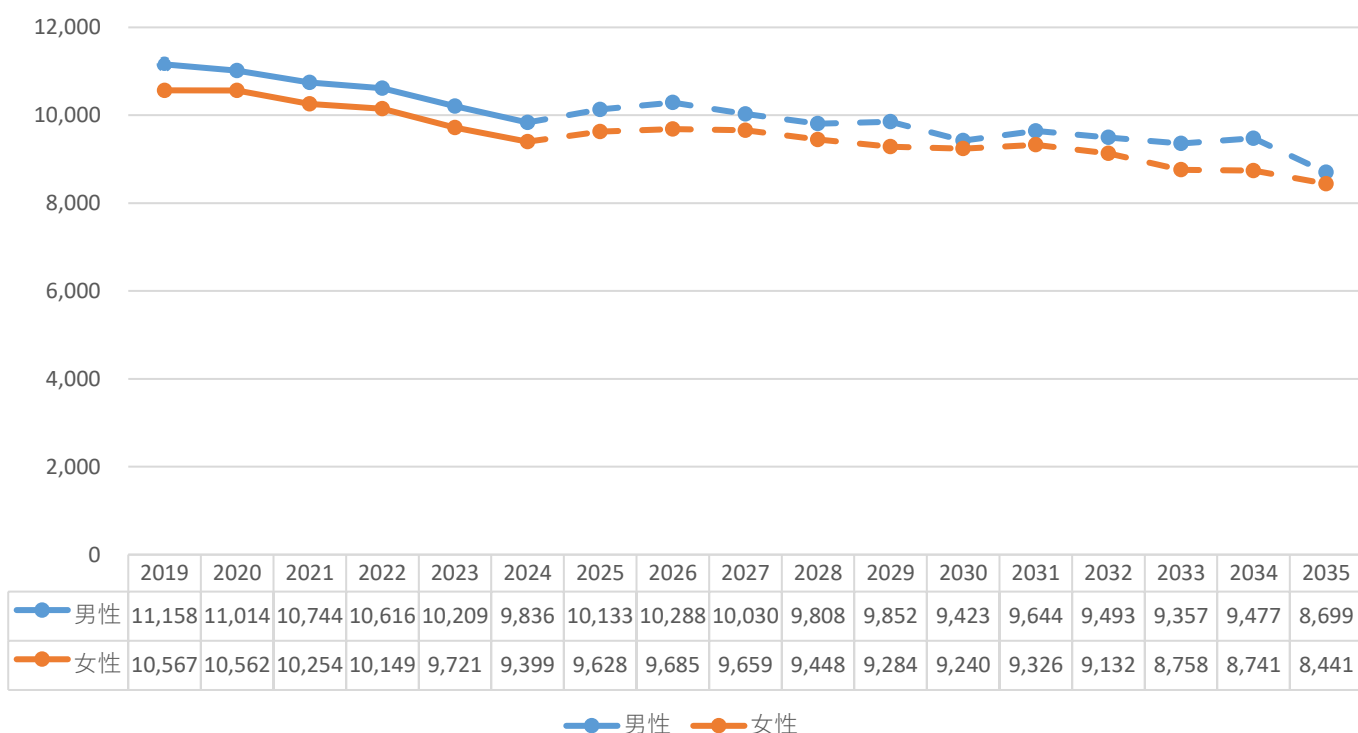
18歳人口推計(2019年～2035年)



宮城県

(単位:人)

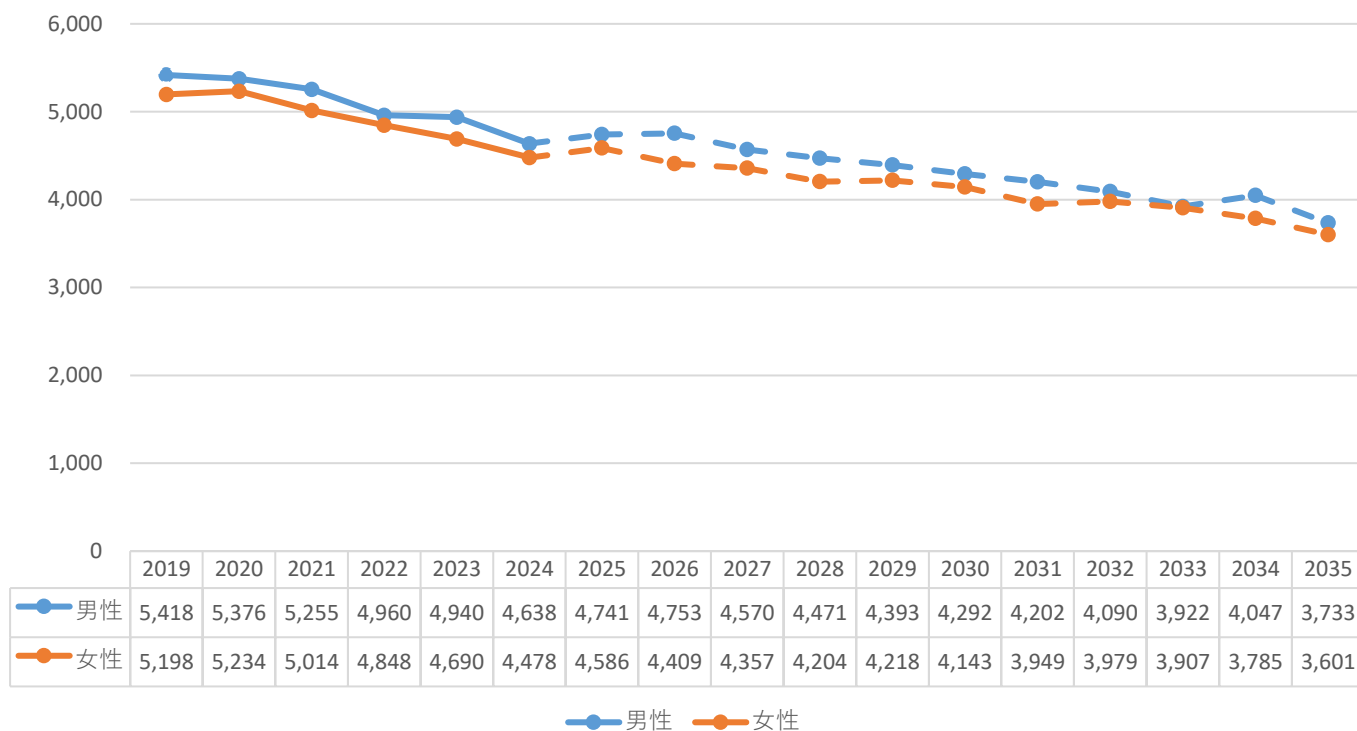
18歳人口推計(2019年～2035年)



山形県

(単位:人)

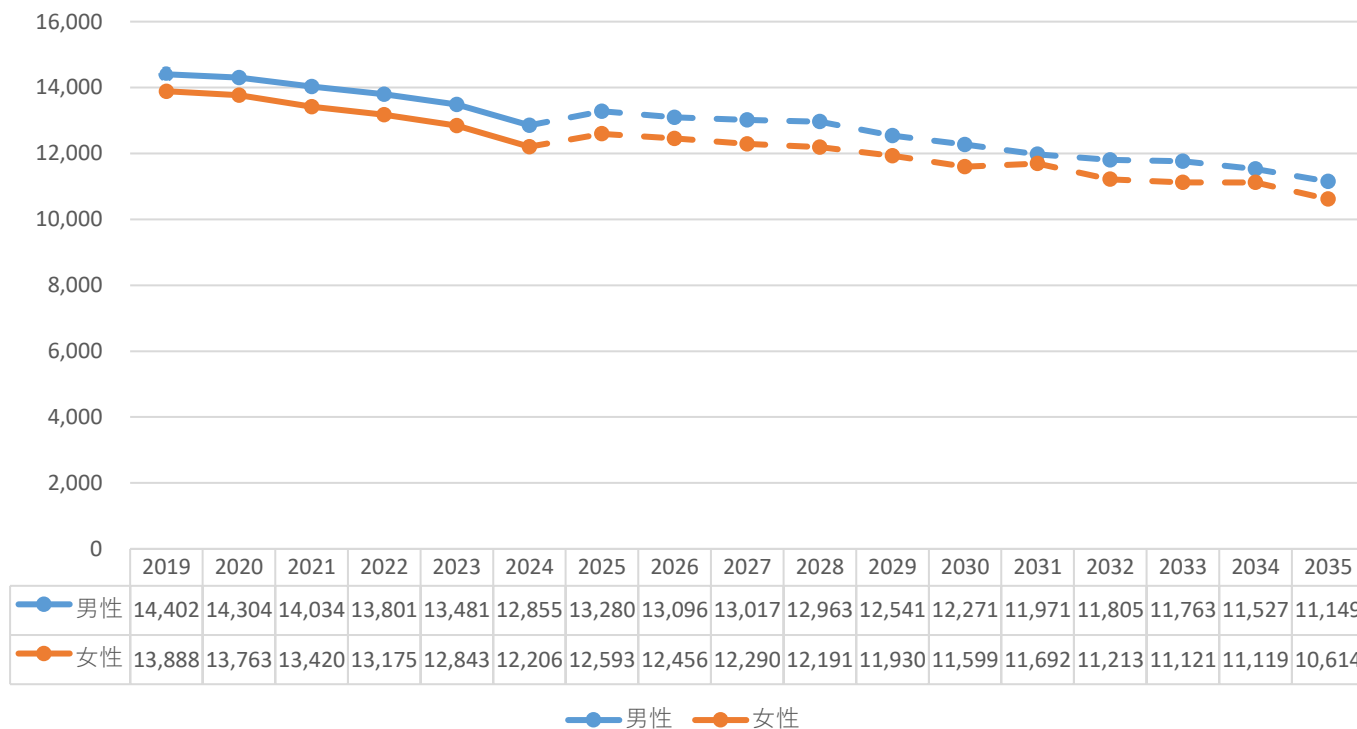
18歳人口推計(2019年～2035年)



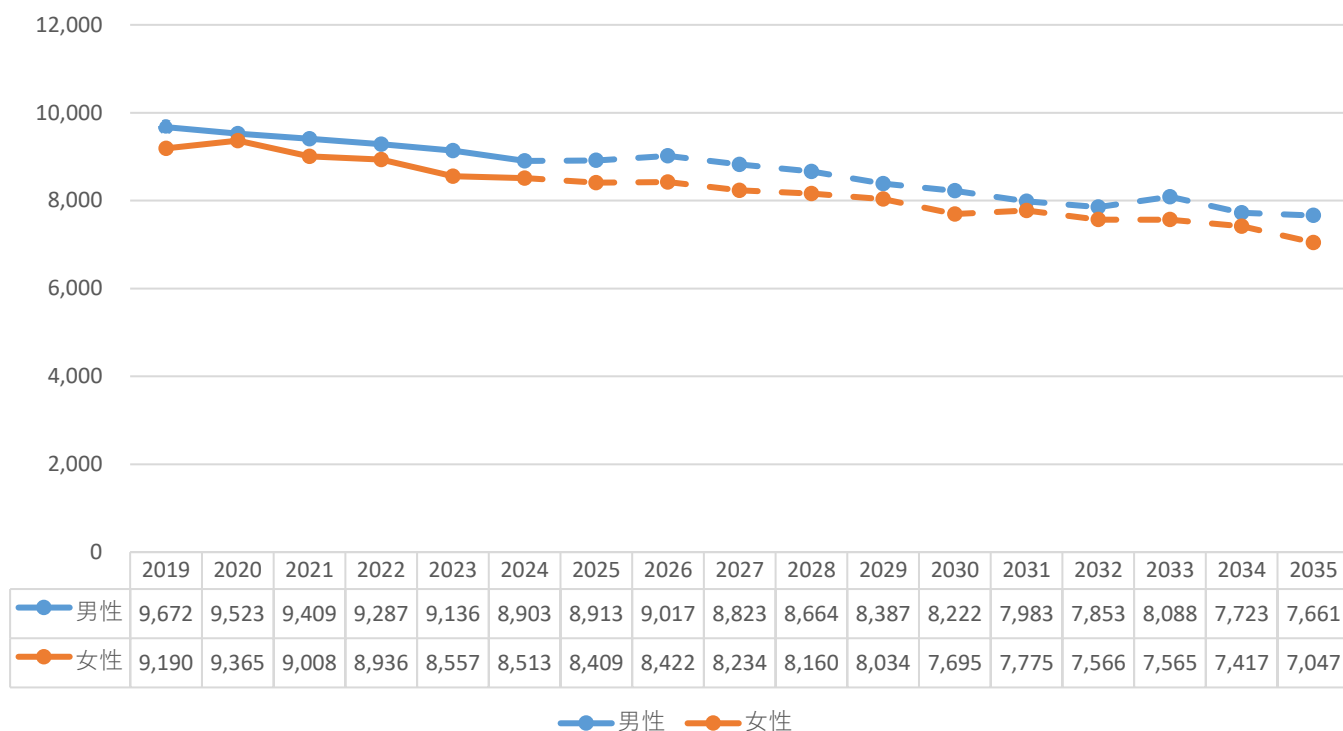
茨城県

(単位:人)

18歳人口推計(2019年～2035年)



18歳人口推計(2019年～2035年)

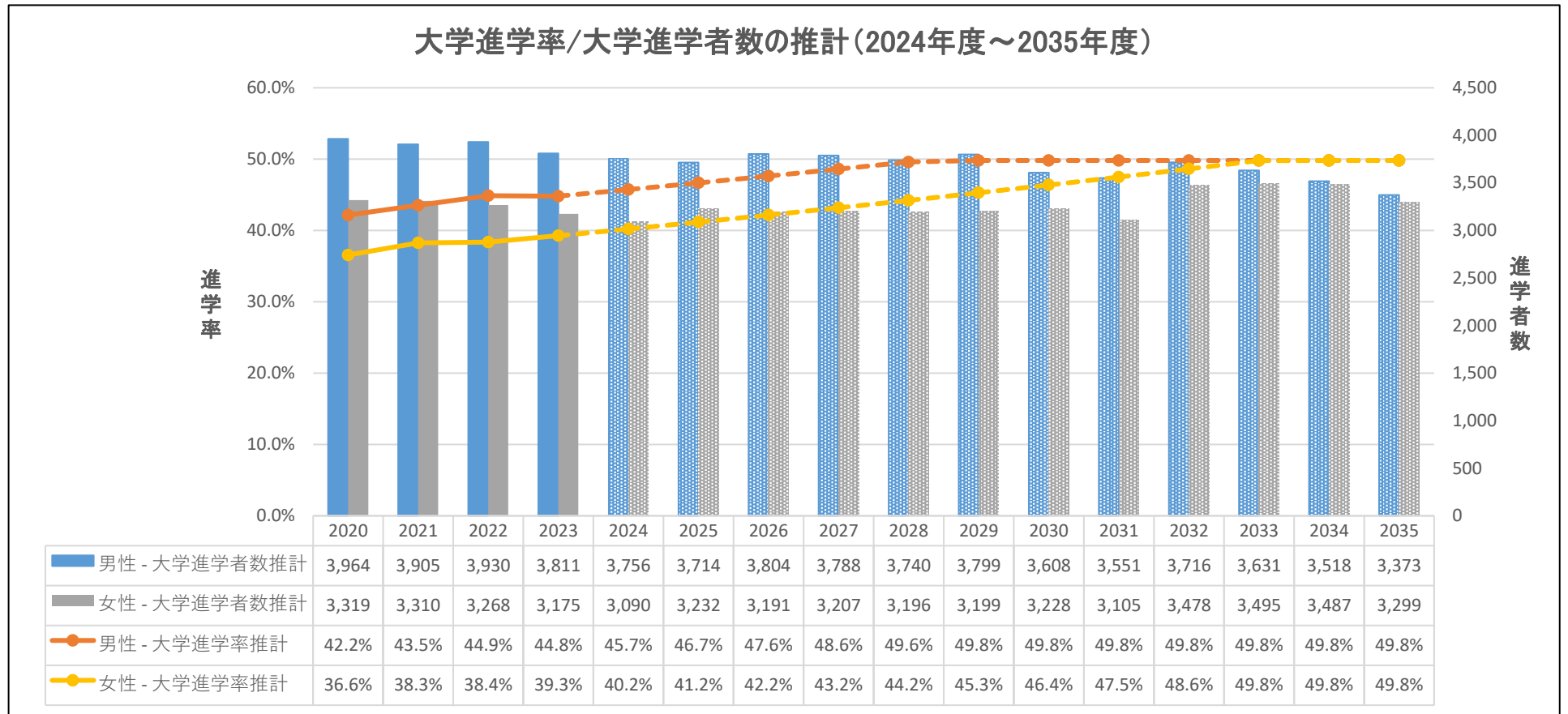


出典:文部科学省「学校基本統計」を基に作成。

※推計の考え方:

令和5(2023)年7月14日の中央教育審議会大学分科会(第174回)の資料(大学入学者数等の将来推計について)の考え方を基に、福島県における3年前の中学校卒業生数、中等教育学校前期課程修了者数及び義務教育学校卒業生数より推計。

資料9 福島県の大学進学者数及び大学進学率の推計



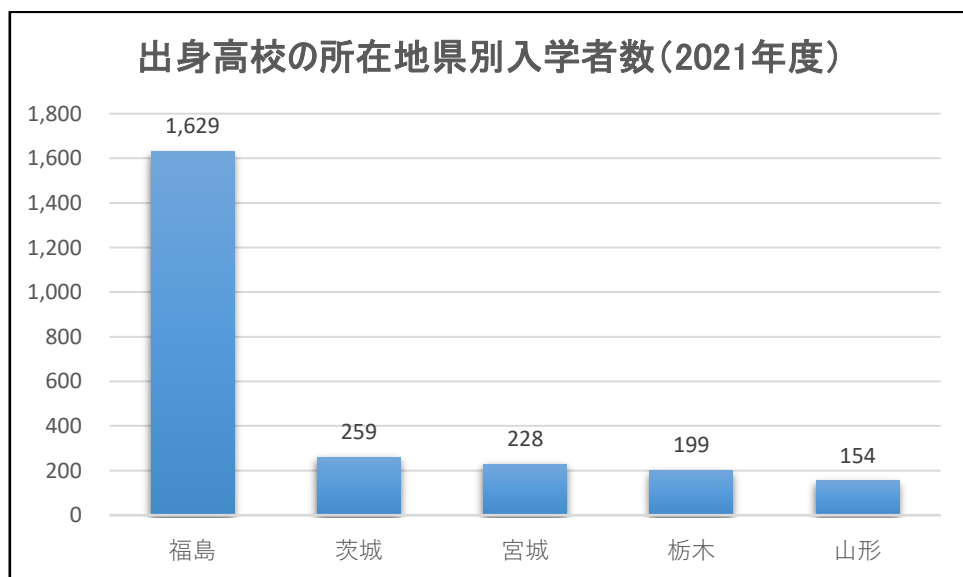
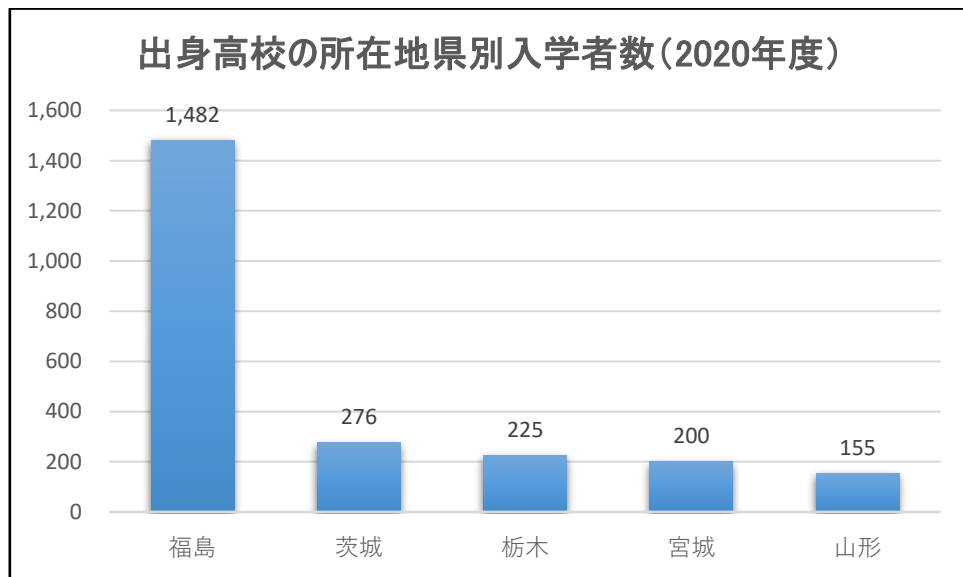
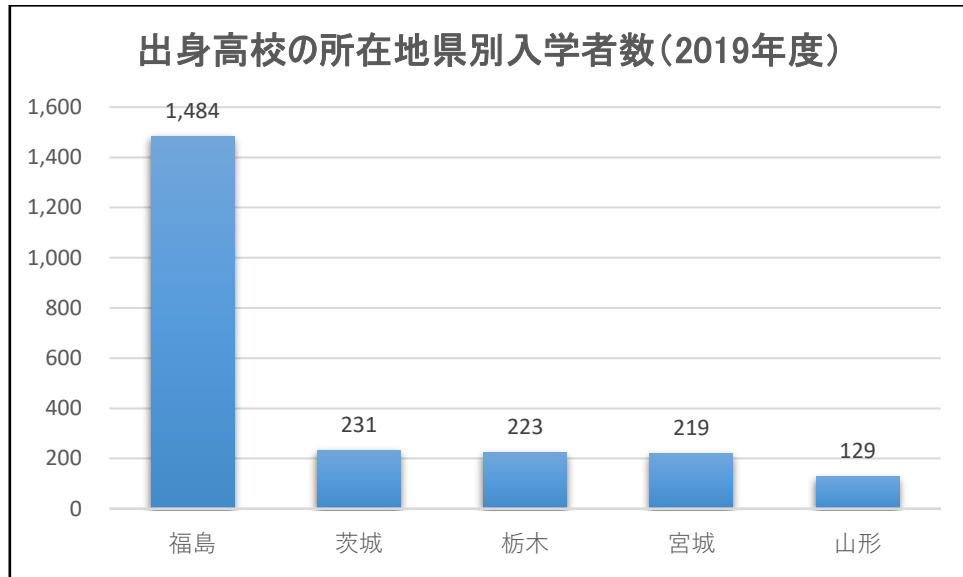
出典：文部科学省「学校基本統計」を基に作成。

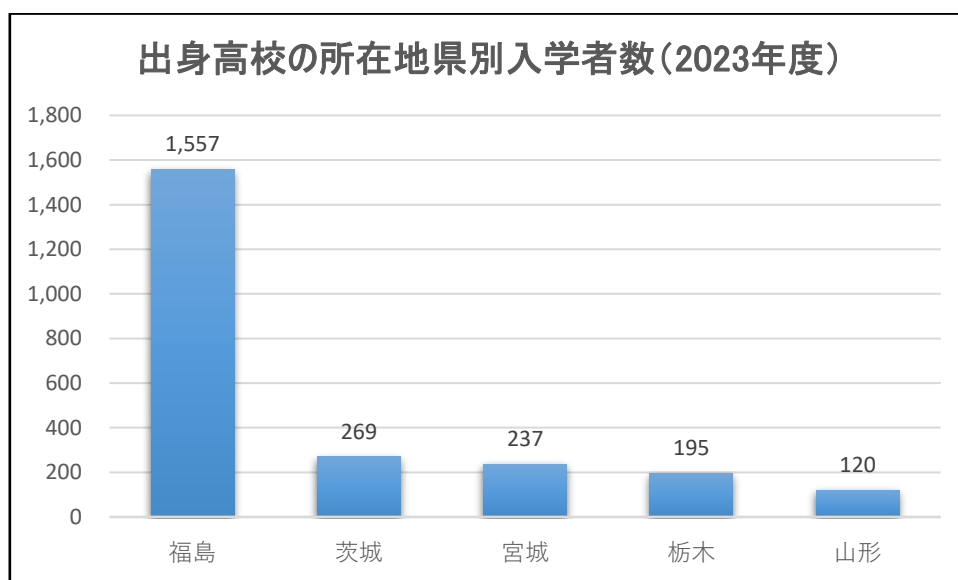
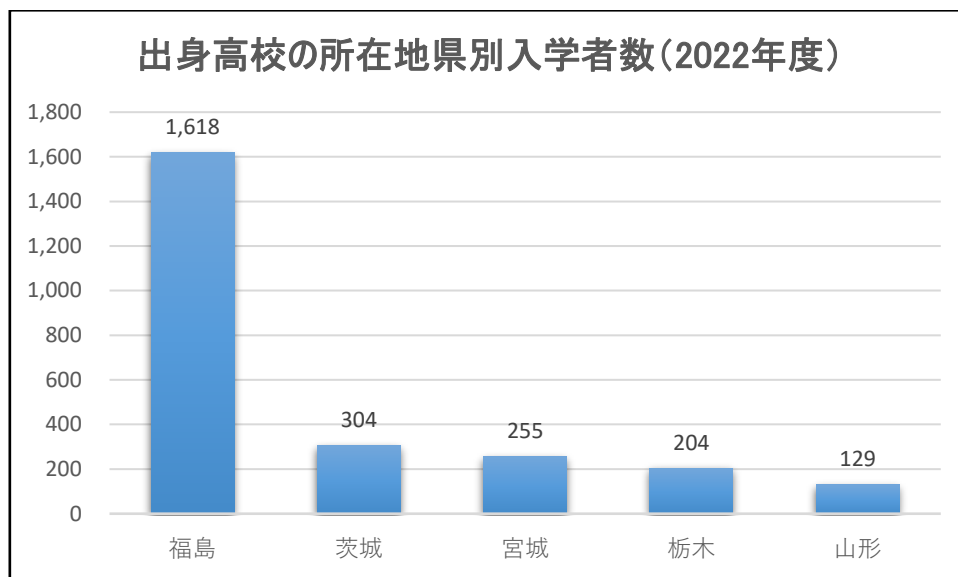
※推計の考え方：

令和5(2023)年7月14日の中央教育審議会大学分科会(第174回)の資料(大学入学者数等の将来推計について)の考え方を基に、令和2(2020)年度から令和5(2023)年度における男女別の大学進学率の伸び率によって今後令和17(2030)年まで大学進学率が上昇すると仮定して推計。ただし、次の①～③については例外としている。

- ①男性の進学率が2023年度と比較して5pt以上上回った場合、+5ptを上限として以降据置き。
- ②女性の進学率が男性の進学率を上回った場合、以降を男性の進学率と同値と仮定。
- ③進学率伸び率がマイナスの場合、2023年度の大学進学率が今後維持されると仮定。

資料 10 福島県内大学への入学者数上位5県（出身高校の所在地別：直近5年間）





出典: 文部科学省「学校基本統計(2019～2023年度)」

資料 11 競合校の入学志願及び定員充足状況(直近5年間)

		平成31(2019) 年度入試	令和2(2020) 年度入試	令和3(2021) 年度入試	令和4(2022) 年度入試	令和5(2023) 年度入試
会津大学 コンピュータ理工学部	入学定員	240	240	240	240	240
	志願者数	1,178	1,267	1,147	1,094	825
	志願倍率	4.9	5.3	4.8	4.6	3.4
	受験者数	1,120	1,208	1,081	1,029	770
	受験倍率	4.7	5.0	4.5	4.3	3.2
	合格者数	273	270	279	278	280
	実質倍率	4.1	4.5	3.9	3.7	2.8
	入学者数	253	242	248	254	255
	入学定員充足率	105.4%	100.8%	103.3%	105.8%	106.3%
日本大学 工学部情報工学科(※1)	入学定員	190	190	190	190	190
	志願者数	—	—	—	—	1,139
	志願倍率	—	—	—	—	6.0
	受験者数	—	—	—	—	1,051
	受験倍率	—	—	—	—	5.5
	合格者数	—	—	—	—	782
	実質倍率	—	—	—	—	1.3
	入学者数	—	195	192	206	258
	入学定員充足率	—	102.6%	101.1%	108.4%	135.8%
岩手大学 理工学部 システム創成工学科	入学定員	270	270	270	270	270
	志願者数	708	797	606	860	504
	志願倍率	2.6	3.0	2.2	3.2	1.9
	受験者数	555	616	441	574	382
	受験倍率	2.1	2.3	1.6	2.1	1.4
	合格者数	302	304	294	307	295
	実質倍率	1.8	2.0	1.5	1.9	1.3
	入学者数	283	282	274	286	264
	入学定員充足率	104.8%	104.4%	101.5%	105.9%	97.8%
東北学院大学 情報学部 データサイエンス学科(※2)	入学定員	—	—	—	—	190
	志願者数	—	—	—	—	1,289
	志願倍率	—	—	—	—	6.8
	受験者数	—	—	—	—	1,279
	受験倍率	—	—	—	—	6.7
	合格者数	—	—	—	—	518
	実質倍率	—	—	—	—	2.5
	入学者数	—	—	—	—	213
	入学定員充足率	—	—	—	—	112.1%
山形大学 工学部 情報・エレクトロニクス学科	入学定員	150	150	150	150	150
	志願者数	358	494	364	403	278
	志願倍率	2.4	3.3	2.4	2.7	1.9
	受験者数	342	470	293	298	224
	受験倍率	2.3	3.1	2.0	2.0	1.5
	合格者数	172	168	166	170	169
	実質倍率	2.0	2.8	1.8	1.8	1.3
	入学者数	156	151	150	155	153
	入学定員充足率	104.0%	100.7%	100.0%	103.3%	102.0%
茨城大学 工学部情報工学科	入学定員	80	80	80	80	80
	志願者数	585	385	349	420	378
	志願倍率	7.3	4.8	4.4	5.3	4.7
	受験者数	332	223	209	238	196
	受験倍率	4.2	2.8	2.6	3.0	2.5
	合格者数	106	98	108	104	104
	実質倍率	3.1	2.3	1.9	2.3	1.9
	入学者数	82	83	82	83	94
	入学定員充足率	102.5%	103.8%	102.5%	103.8%	117.5%

※1 2019年度から2022年度の入試結果を大学ウェブサイト上で閲覧できないため、「志願者数」、「受験者数」、「合格者数」、「入学者数」(2019年度のみ)を空欄としている。

※2 2023年4月開設。

資料 12 既設学科等の入学定員の充足状況(全入試区分:直近5年間)

		平成31(2019) 年度入試	令和2(2020) 年度入試	令和3(2021) 年度入試	令和4(2022) 年度入試	令和5(2023) 年度入試
人文社会学群 人間発達文化学類	入学定員	260人	260人	260人	260人	260人
	志願者数	1,392人	1,227人	965人	1,010人	778人
	志願倍率	5.4	4.7	3.7	3.9	3.0
	受験者数	1,074人	929人	687人	709人	505人
	受験倍率	4.1	3.6	2.6	2.7	1.9
	合格者数	285人	285人	287人	289人	304人
	実質倍率	3.8	3.3	2.4	2.5	1.7
	入学者数	266人	264人	269人	263人	285人
	入学定員充足率	1.02	1.02	1.03	1.01	1.10
人文社会学群 行政政策学類	入学定員	205人	205人	205人	205人	205人
	志願者数	629人	1,122人	725人	597人	922人
	志願倍率	3.1	5.5	3.5	2.9	4.5
	受験者数	521人	677人	553人	359人	654人
	受験倍率	2.5	3.3	2.7	1.8	3.2
	合格者数	224人	226人	232人	224人	232人
	実質倍率	2.3	3.0	2.4	1.6	2.8
	入学者数	217人	213人	215人	210人	215人
	入学定員充足率	1.06	1.04	1.05	1.02	1.05
人文社会学群 経済経営学類	入学定員	220人	220人	220人	220人	220人
	志願者数	788人	829人	676人	710人	512人
	志願倍率	3.6	3.8	3.1	3.2	2.3
	受験者数	571人	561人	433人	476人	319人
	受験倍率	2.6	2.6	2.0	2.2	1.5
	合格者数	256人	256人	254人	256人	257人
	実質倍率	2.2	2.2	1.7	1.9	1.2
	入学者数	224人	225人	227人	226人	226人
	入学定員充足率	1.02	1.02	1.03	1.03	1.03
理工学群 共生システム理工学類	入学定員	160人	160人	160人	160人	160人
	志願者数	931人	810人	897人	560人	1,024人
	志願倍率	5.8	5.1	5.6	3.5	6.4
	受験者数	537人	402人	502人	321人	523人
	受験倍率	3.4	2.5	3.1	2.0	3.3
	合格者数	195人	198人	192人	199人	190人
	実質倍率	2.8	2.0	2.6	1.6	2.8
	入学者数	166人	171人	171人	178人	173人
	入学定員充足率	1.04	1.07	1.07	1.11	1.08
農学群食農学類	入学定員	100人	100人	100人	100人	100人
	志願者数	502人	311人	373人	397人	371人
	志願倍率	5.0	3.1	3.7	4.0	3.7
	受験者数	316人	175人	222人	241人	201人
	受験倍率	3.2	1.8	2.2	2.4	2.0
	合格者数	119人	110人	115人	114人	121人
	実質倍率	2.7	1.6	1.9	2.1	1.7
	入学者数	108人	100人	104人	106人	109人
	入学定員充足率	1.08	1.00	1.04	1.06	1.09
5学類合計	入学定員	945人	945人	945人	945人	945人
	志願者数	4,242人	4,299人	3,636人	3,274人	3,607人
	志願倍率	4.5	4.5	3.8	3.5	3.8
	受験者数	3,019人	2,744人	2,397人	2,106人	2,202人
	受験倍率	3.2	2.9	2.5	2.2	2.3
	合格者数	1,079人	1,075人	1,080人	1,082人	1,104人
	実質倍率	2.8	2.6	2.2	1.9	2.0
	入学者数	981人	973人	986人	983人	1,008人
	入学定員充足率	1.04	1.03	1.04	1.04	1.07

※全入試区分:一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜、私費外国人留学生選抜

資料 13 共生システム理工学類一般選抜(前期・後期日程)における入学志願状況等(直近5年間)

年度	試験日程	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	受験倍率	合格者数	実質倍率
2019 年度	前期日程	70	229	3.3	225	3.2	90	2.5
	後期日程	45	581	12.9	192	4.3	54	3.6
2019 年度計		115	810	7.0	417	3.6	144	2.9
2020 年度	前期日程	70	163	2.3	157	2.2	93	1.7
	後期日程	45	558	12.4	157	3.5	57	2.8
2020 年度計		115	721	6.3	314	2.7	150	2.1
2021 年度	前期日程	70	238	3.4	223	3.2	89	2.5
	後期日程	42	559	13.3	183	4.4	49	3.7
2021 年度計		112	797	7.1	406	3.6	138	2.9
2022 年度	前期日程	70	135	1.9	132	1.9	92	1.4
	後期日程	42	316	7.5	81	1.9	56	1.4
2022 年度計		112	451	4.0	213	1.9	148	1.4
2023 年度	前期日程	70	276	3.9	258	3.7	83	2.8
	後期日程	42	667	15.9	186	4.4	45	4.1
2023 年度計		112	943	8.4	444	4.0	138	3.2
5年平均		113	744	6.6	359	3.2	144	2.5

※志願倍率＝志願者数÷募集人員、受験倍率＝受験者数÷募集人員、実質倍率＝受験者数÷合格者数

福島大学

理工学群 共生システム理工学類

採用意向アンケート調査報告書

令和 6 年 2 月 2 0 日

株式会社高等教育総合研究所

目 次

1. 採用意向アンケート調査 概要	3
2. 採用意向アンケート調査 集計結果	4
3. 採用意向アンケート調査 結果の要点.....	11
4. 配布資料.....	14

1. 採用意向アンケート調査 概要

調査目的	福島大学 理工学群 共生システム理工学類（入学定員 200 人・2025 年度定員増予定）における卒業後の採用・就職（人材需要）の見込みを測定することを目的とする。
調査対象	過去 4 年間の福島大学の実績（採用・求人）等に基づいて、卒業後に就職・採用が見込まれる企業等 337 件に依頼した。
調査内容	・回答事業所の基本情報（業種・所在地） ・卒業生の人材ニーズ及び採用意向
調査時期	2023 年 12 月～2024 年 2 月
調査方法	調査事業所に対し、アンケート用紙を郵送し依頼することにより実施。回答者が紙と WEB アンケートのいずれかを選択。
回収件数	有効回答数：124 件（紙：41 件、WEB：83 件）（回収率 36.8%）
調査結果	【採用意向】 119 事業所（96.0%）により採用意向が示された。
	【採用可能人数】 採用可能人数（単年度）は、235 人であった。

2. 採用意向アンケート調査 集計結果

※「構成比」(%) はいずれも、小数点第二位を四捨五入。そのため必ずしも 100.0% と一致しない。

問1 貴社・貴団体の代表所在地をお答えください。

選択肢	回答数	構成比
北海道	1	0.8%
青森県	0	0.0%
岩手県	1	0.8%
宮城県	16	12.9%
秋田県	1	0.8%
山形県	4	3.2%
福島県	28	22.6%
茨城県	3	2.4%
栃木県	4	3.2%
群馬県	0	0.0%
埼玉県	2	1.6%
千葉県	0	0.0%
東京都	43	34.7%
神奈川県	5	4.0%
新潟県	3	2.4%
富山県	1	0.8%
石川県	0	0.0%
福井県	0	0.0%
山梨県	1	0.8%
長野県	0	0.0%
岐阜県	0	0.0%
静岡県	1	0.8%
愛知県	4	3.2%
三重県	0	0.0%
滋賀県	0	0.0%
京都府	0	0.0%
大阪府	3	2.4%
兵庫県	1	0.8%
奈良県	0	0.0%
和歌山県	0	0.0%
鳥取県	0	0.0%
島根県	0	0.0%

岡山県	0	0.0%
広島県	1	0.8%
山口県	0	0.0%
徳島県	0	0.0%
香川県	1	0.8%
愛媛県	0	0.0%
高知県	0	0.0%
福岡県	0	0.0%
佐賀県	0	0.0%
長崎県	0	0.0%
熊本県	0	0.0%
大分県	0	0.0%
宮崎県	0	0.0%
鹿児島県	0	0.0%
沖縄県	0	0.0%
合計	124	100.0%

問2 貴社・貴団体の業種についてお答えください。

選択肢	回答数	構成比
農業、林業	1	0.8%
漁業	0	0.0%
鉱業、採石業、砂利採取業	0	0.0%
建設業	9	7.3%
製造業	25	20.2%
電気・ガス・熱供給、水道業	5	4.0%
情報通信業	38	30.6%
運輸業、郵便業	2	1.6%
卸売業、小売業	11	8.9%
金融業、保険業	3	2.4%
不動産業、物品賃貸業	3	2.4%
学術研究、専門・技術サービス業	10	8.1%
宿泊業、飲食サービス業	0	0.0%
生活関連サービス業、娯楽業	1	0.8%
教育、学習支援業	1	0.8%
医療、福祉	3	2.4%
複合サービス事業	0	0.0%
その他サービス業	6	4.8%

公務	1	0.8%
その他	5	4.0%
合計	124	100.0%

問3 貴社・貴団体の従業員数（正規社員数）についてお答えください。

選択肢	回答数	構成比
50 名未満	7	5.6%
50 名以上 100 名未満	8	6.5%
100 名以上 500 名未満	39	31.5%
500 名以上 1,000 名未満	23	18.5%
1,000 名以上 5,000 名未満	37	29.8%
5,000 名以上	10	8.1%
合計	124	100.0%

問4 福島大学 理工学群 共生システム理工学類が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。

選択肢	回答数	構成比
ニーズは高い	77	62.1%
ニーズはある程度高い	41	33.1%
ニーズはあまりない	0	0.0%
ニーズはない	1	0.8%
わからない	5	4.0%
合計	124	100.0%

問5 福島大学 理工学群 共生システム理工学類を卒業した学生を採用したいと思いますか。

選択肢	回答数	構成比
採用したい	119	96.0%
採用しない	4	3.2%
無回答	1	0.8%
合計	124	100.0%

問 6 単年度で採用可能と思われる人数は何人ですか。

選択肢	回答数	構成比
1 人	11	9.2%
2 人	15	12.6%
3 人	13	10.9%
4 人	5	4.2%
5 人以上	15	12.6%
人数は未確定だが、最低 1 人	60	50.4%
合計	119	100.0%

問 7 福島大学 理工学群 共生システム理工学類について、期待する点や、ご要望等がございましたらご自由にお書きください。

回答
IT 関連の知識をビジネス面で活用できる人材の育成に力を入れてほしい。
IT 業界は増える一方ですので、今後活躍できる人材育成が望めると思いますので期待しております。
IT 人材が不足しているので、より専門的が学習を行った即戦力となりえる人材に期待するから。
IT 人材不足の懸念より、将来 IT 技術者となりうるための基礎・応用力を持った人材の創出に期待します。 また、大都市圏だけでなく地方 IT 人材の定着も考慮した近隣大学・県と協力した人材育成を願う。
グローバルの課題である環境問題、エネルギー問題についての研究や調査を行い、システム全体を考えると いう理念に基づき、具体的なシステム構築ができる人材を輩出されていると思います。 当社における生産本部の生産技術エンジニアや、品質保証エンジニアとして、活躍いただきたいと考えま す。当社は白河市に工業を有しており、同じ福島県内ですので、ぜひ、企業説明会の開催をお願いしたいと 思います。
ぜひ採用させていただきたいです。学生さんのご紹介をよろしくお願いします。
ソフトウェア設計ができる方の採用を積極的に行なっております。もしご興味を持っていただける学生がい らっしゃれば選考のご案内をお願いいたします。（URL は割愛）
データサイエンスの知見がある人材のニーズは非常にあるのではないかと考えております。
プログラミングスキル向上
より実務に近い学びを期待します。
医療機器の据付・保守・修理等を行います。作業だけではなく、お客様である医療機関の方々との確なコ ミュニケーション、迅速・誠実な対応を行うことで、信頼関係を構築していきます。技術者としての知識・能 力のみならず、コミュニケーション能力も大切なお仕事です。
課題をこなすようなカリキュラムではなく、学生が主体的に何かをつくったり研究したり、といったカリキ ュラムが多めだと大変ありがたいです。情報系の場合だと、プログラミング言語を学ぶだけではなく、これ で何ができるのかというところまで想像・理解できている学生が増えると好ましいです。

介護ロボットや介助用機器など、人の体を支える技術を提供するためには、現場で起こりうる事態を知ったうえで、それにあったものを開発できればと考えています。技術者様との連携の基、実態を知る者の情報が、外部にも内部にも必要であると思います。
学生に対し、エネルギー分野に興味を持ってもらえるような講義を取り入れてほしい
貴学より今年度1名採用しましたが、残念ながら数ヶ月で退職してしまいました。研究活動に没頭し就職活動が後手に回り、売り手市場ながら内定が取れず、結局地元の弊社を選んだとのことでした。大卒の就職活動は今後の人生の大きな節目であると考えます。また企業にとっても大きな期待を描き迎え入れる準備をします。研究活動も大切ですが、就職ということについて大学側でも熱心に取り組んで頂きたいそう感じました。
貴校のような優秀な学生さんが多く在籍する大学であれば、優秀な学生さんが集まられると思いますので、できるだけ多く入社いただきたいと考えております。
高い専門性を持った学生に期待します。
今後IT人材が不足する事が想定されている。また、当社としても毎年、貴学類からの採用をしていきたいと考えているため、共生システム理工学類人員の増員には期待しかない。
今後もぜひ貴学の学生様とのご縁に繋がればと思っておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。
座学だけではなく、グループワークなどから得られるものもあると思いますので、体験型の授業が多いと社会で役立つと思います。
資質が高い学生が多いとの印象です。在籍者も活躍しています。 今後も採用を続けたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
自ら課題を見つけ、自ら改善できる力を持った人材の育成に期待します。
自ら考えられる人材が育成できることを期待します。
自動車リサイクルでの資源循環についての3Rを実践しています。 今後は製造側との共存で資源循環が実現します。 地球に貢献する仕事として共に歩んでいきたいと考えます
社会に直接役に立つ学問が多いので、社会情勢や今後の社会展望と関連付け学びを深めてほしいです。
趣味などでゲームの開発を行っている生徒様が居れば前向きにお話をしてみたいです
情報系資スキルを活用した東北地域のDX人材の育成
情報理工学コース・メカトロニクスコース出身学生は弊社のターゲット像に合致するので、採用したい。
情報理工学コースの卒業見込みの学生向けに、企業説明会を行う機会をいただけると幸いです。
情報理工学の内容が、弊社の事業内容と合致すると思われますので、地元福島への貢献の点からも、地元福島の企業への就職が増えることを期待しております。
情報理工学の内容が弊社の事業内容と合致すると思われました。地元福島への貢献の点からも、地元福島の企業への就職が増えることを期待しております。
情報理工学や環境システム学類に期待します。情報理工学ではデータ解析の基礎の理解、環境システムでは河川工学など土木工学系のカリキュラムがあれば弊社のような会社で活躍できると思われれます。

新設される理工学群 共生システム理工学類をご卒業される学生様には地域を担う主体性やチームワーク、学び続ける力のある人材としてのご活躍を期待しています。 また、当社では環境に配慮した製品の研究開発に力を入れておりますので、より良い地球環境を次世代に引き継ぐ人材育成をお願い申し上げます。 今後により一層の関係を築ければと存じます。引き続き、宜しくお願い申し上げます。
人数は何人でも
専門的な学びも大事ではありますが、学生の「自律的に考えて物事に取り組む力」を伸ばしていただくような教育を期待します。
専門的な力とコミュニケーション能力のバランスの取れた総合力の高い人材の育成を期待しております。
専門分野の知識もちろんですが、積極性やコミュニケーション能力にも期待します。
卒業後に福島県内で活躍していただける学生を育ていただくことを期待しております。
知識詰め込みだけでは内論理的思考力を期待する。
地元の IT 企業として地域の情報化に貢献するにあたり、同じ志を持つ優秀な学生に、是非入社してほしいと思います。
東北地域における DX の推進に大きく貢献できる人材を輩出してほしい。
当社には理工学類 1 期生もおりまして、そのあと卒業生が増えていきました。しかし、福島大学での理系学生人数が多くないこと、当社の知名度の低さ故に毎年必ず採用出来たわけではないので理系学生が増えることは賛成です
当社は文系の学生が多いため、理系の学生は是非確保したい人材。ロジカルに考えることにおいて、定量敵二とられることは大切である。
特にございません。貴校出身 OB は非常に活躍いただいています。
復興発展に貢献しようとする学生が集まり、専門的な力や実践力というところが養われるとのことでしたので、実際に勤務するにあたって、力を発揮できるよう対応していただきたく存じます。
福島県内企業の DX をけん引する人材の育成を期待いたします。
弊社では近年の労働人口減少の影響を受け、理工学系の人材を求めています。ぜひ福島で働きたいと考えている学生に対して、弊社に興味をもっていただけるように尽力しますので、今後ともよろしくお願いいたします。
弊社に貴学類の卒業生 2 名在籍しております。 何事にも前向きで積極的に業務に携わり、コミュニケーション能力も高く、将来大いに期待しております。 引き続き卒業生の採用を検討しておりますので、よろしくお願い申し上げます。
弊社は 2011 年の震災の影響で福島県浜通りにある 5 店舗が今でも休業中となっております。 福島県も復興が進んでいますが、このような入学定員の拡大で今後更に復興・発展に貢献しようとする人々が集まってくれることを期待しております。
弊社はリサイクルに関係するものづくりを行っており、環境問題に興味、関心のある学生が更に増える事を期待しております。
弊社は開発職のみ採用となるため、理系だが経営系の学生などは積極的に採用することができていませんでした。今回の再編では、理系寄りの再編となると感じましたので、今後は採用につながることを期待しています。

弊社は建設コンサルタントですが、社会インフラ全般における問題課題に対して最適解を提供する業界であり、この環境システムコースは建設コンサルタント業界の求める人材に合致していると思います。社会システムを多面的に管理運営する能力を養うことは大変重要であり、これからの日本を担う人材として大変貴重だと思います。
弊社は放射性物質の分析を主業務として行っている企業です。 福島第一原子力発電所の放射性廃棄物の分析手法開発などに関わっており、分子デザイン科学コースで学んできた知見を活かし、今後の分析技術の向上に役立てて頂きたいと考えます。
問5については現時点で分からないため上記の回答をしております。
論理的な思考が出来る、視野の広い学生様に成長されることを期待しています。
論理的に考え・伝えるという点がとても優れていると思います。弊社に在籍する卒業生と同じようにチームワークとコミュニケーションを重んじる方を期待しております。

※問7は原文ママ。「特に無し」等は割愛。

3. 採用意向アンケート調査 結果の要点

要点1) 福島大学 理工学群 共生システム理工学類で養成する人材の社会的ニーズ

問4で回答事業所の62.1%にあたる77件から「福島大学 理工学群 共生システム理工学類で養成する人材の社会的ニーズは高い」との回答を得た。養成する人材像が、事業所から高い評価を得ていることが示された。

ニーズは高い	77 件	62.1%
ニーズはある程度高い	41 件	33.1%
ニーズはあまりない	0 件	0.0%
ニーズはない	1 件	0.8%
わからない	5 件	4.0%

要点 2) 福島大学 理工学群 共生システム理工学類の卒業生の採用意向

調査を行った事業所の 96.0%にあたる 119 件から、福島大学 理工学群 共生システム理工学類の卒業予定者の採用意向が示された。また、採用可能人数（単年度）の合計は、入学定員の 200 人を上回る 235 人（1.2 倍）であった。

問 5 福島大学 理工学群 共生システム理工学類の卒業生の採用意向

採用したい	119 件	96.0%
採用しない	4 件	3.2%

問 6 福島大学 理工学群 共生システム理工学類の卒業生を採用可能人数（単年度）

1 人	11 件	9.2%
2 人	15 件	12.6%
3 人	13 件	10.9%
4 人	5 件	4.2%
5 人以上	15 件	12.6%
人数は未確定だが、最低 1 人	60 件	50.4%

採用可能人数（単年度）の合計：選択肢（人数）×回答者数。また、「人数は未確定だが、最低 1 人」の「1 人」としてカウントした。

要点3) 業種別クロス集計

回答事業所の業種（問1）と採用意向（問5）のクロス集計を行ったところ、「採用したい」の回答を得た業種の上位3業種は「情報通信業」「製造業」「卸売業、小売業」であった。養成する人材像の特性に応じた採用意向が示された。

選択肢	採用したい
情報通信業	37
製造業	24
卸売業、小売業	11
学術研究、専門・技術サービス業	10
建設業	8
その他サービス業	6
電気・ガス・熱供給、水道業	5
その他	5
金融業、保険業	3
運輸業、郵便業	2
不動産業、物品賃貸業	2
医療、福祉	2
農業、林業	1
生活関連サービス業、娯楽業	1
教育、学習支援業	1
公務	1

以上

情報理工学コース

理論から、システム開発、実践までバランスのとれた能力を有した情報人材を育成します。特に、現実の事象のモデリングや分析を支える数学のスキル、ソフトウェアの設計開発に不可欠なネットワークやデータベース、人工知能など情報科学のコア知識とプログラミングスキル、さらに、生産技術や物流などITの社会実装に必要な経営工学的な視野を備え、技術の変化に対応することのできる実践力を養います。

メカトロニクスコース

人々の生活を豊かにする新たな「技術」や「システム」の創出を担うために必要となる、ものごとの基礎的理解から分析・設計・シミュレーション・実装・検証までの能力を有する研究者・開発者を養成します。そのために、物理学・機械工学・電気工学・人間工学・生理学を基盤として、新機能を持つデバイスなどの要素技術や新たな測定手法や、ロボティクスや生体医学における制御技術・数値シミュレーション・信号処理技術や人理解などの研究を通して、物・人・現象などのモデル化、システム設計、製作などの技術の体系的な学びを提供します。

分子デザイン科学コース

高機能・高付加価値で環境負荷の少ない新たな物質・材料を創製することができ、また、省エネ・創エネ・蓄エネの技術を開発できるなど、様々な専門技術者を養成します。そのために、「化学」を基盤とし、省資源・省エネルギーを常に意識しつつ、小分子レベルからナノレベル、バルクレベルでの物質・材料の製造方法を設計し評価することができ、未来を見据え発展的に新機能を探求し、水素等を用いる革新的エネルギー技術の開発、放射性物質や汚染土壌等への高度な分析技術の開発などにもチャレンジできる人材を育成します。

環境システムコース

地球科学、自然史、生物多様性など自然環境に関する専門知識に加え、社会環境や文化環境に関する幅広い理解と自然を含む社会システムを多面的に管理運営する能力を養います。世界や地域の自然災害の予測や防災、環境や生物の保全、持続可能な社会の構築に関して、実践的かつ技術的に対応できる人材、あるいはその教育・普及に専門的に携わることのできる人材を育成します。

設置の理念

共生システム理工学類は、「人—産業—環境」に関するシステム科学を「共生」の観点から系統的に学修する「理・工」教育を行い、21世紀型の課題ともいわれる人口減少・高齢化問題や環境・資源・エネルギー問題などに対し貢献できる人材養成を目的としています。

アドミッションポリシー

共生システム理工学類では、21世紀の社会が抱える諸課題に挑戦でき、人・産業・環境が共生する社会の構築に貢献できる人材を育成することを目標に掲げています。共生を科学する新しい教育・研究システムの下で、卒業までに、本学類のディプロマポリシーに示す能力を身につけたいと考える学生を受け入れます。

カリキュラムポリシー

共生システム理工学類では、「専門力」・「決定力」・「実践力」・「貢献力」を養うため、1年次には基盤教育と併せて学類共通領域科目を履修し、2年次よりコースに配属されコース領域科目を履修します。3年次後期に研究室に配属し、必修として演習と卒業研究を履修します。卒業研究により、専門性を確かなものとし、立案決定力や実践力を養成します。学問領域や文系理系の枠を超えた幅広い自由な学びを保障するため、自由選択領域を設けます。

ディプロマポリシー

本学類は、基礎的な理工学的知識を習得し、自ら専門性を高め、よりよい社会の構築に向けて専門性を活用できる理工系人材を養成するため、「専門力」「決定力」「実践力」「貢献力」の四つの能力の観点からディプロマポリシーを定めます。

- I 幅広い理工学的基礎知識と確かな専門性
- II 論理的で的確な立案力と決定力
- III 学際的・国際的に実践する力
- IV 積極的かつ持続的な貢献意識



福島大学 理工学群 共生システム理工学類に関するアンケート	
福島大学では、2025 年 4 月に「理工学群 共生システム理工学類」の入学定員の増員を構想中です。「リーフレット」をご覧の上、同学類への採用意向に関する調査にご協力をお願いします。なお、この調査の結果は、統計資料としてのみ使い、他の用途に使用することはありません。また、計画は予定であり、今後変更となる可能性があります。 ※このアンケート調査は福島大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。 ※本アンケートおよびリーフレットに記載されている内容については予定であり、変更される可能性があります。	
記入要領	1. 回答は所定の欄を塗りつぶすてください。 2. この用紙は電算処理しますので汚さないようにしてください。 3. 記入は必ず鉛筆及びシャープペンシルで濃く書いてください。
	【記入例】 ☐ ① 大学 ☐ ② 短期大学

名称	構想時期	入学定員	学位
福島大学 理工学群 共生システム理工学類	2025 年 4 月	200 名	学士（理工学）

本アンケート調査は、WEB サイトでも回答が可能です。 右記の二次元コードを読み取り、アンケート回答画面にお進みください。 ※WEB アンケートでご回答いただいた場合、紙アンケートのご返送は不要です。	URL : https://form.run/@fukushima-u 
---	--

◆貴社・貴団体についてお教えてください。

問 1 貴社・貴団体の代表所在地をお答えください。（あてはまるもの 1 つにマーク）

- | | | | | | | |
|---------------------------|----------------------------|---------------------------|---------------------------|----------------------------|---------------------------|----------------------------|
| ☐ 北海道 | ☐ 茨城県 | ☐ 新潟県 | ☐ 静岡県 | ☐ 奈良県 | ☐ 徳島県 | ☐ 熊本県 |
| ☐ 青森県 | ☐ 栃木県 | ☐ 富山県 | ☐ 愛知県 | ☐ 和歌山県 | ☐ 香川県 | ☐ 大分県 |
| ☐ 岩手県 | ☐ 群馬県 | ☐ 石川県 | ☐ 三重県 | ☐ 鳥取県 | ☐ 愛媛県 | ☐ 宮崎県 |
| ☐ 宮城県 | ☐ 埼玉県 | ☐ 福井県 | ☐ 滋賀県 | ☐ 島根県 | ☐ 高知県 | ☐ 鹿児島県 |
| ☐ 秋田県 | ☐ 千葉県 | ☐ 山梨県 | ☐ 京都府 | ☐ 岡山県 | ☐ 福岡県 | ☐ 沖縄県 |
| ☐ 山形県 | ☐ 東京都 | ☐ 長野県 | ☐ 大阪府 | ☐ 広島県 | ☐ 佐賀県 | |
| ☐ 福島県 | ☐ 神奈川県 | ☐ 岐阜県 | ☐ 兵庫県 | ☐ 山口県 | ☐ 長崎県 | |

問 2 貴社・貴団体の業種についてお答えください。（あてはまるもの 1 つにマーク）

- | | | | |
|------------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------|
| ☐ 農業、林業 | ☐ 電気・ガス・熱供給、水道業 | ☐ 不動産業、物品賃貸業 | ☐ 医療、福祉 |
| ☐ 漁業 | ☐ 情報通信業 | ☐ 学術研究、専門・技術サービス業 | ☐ 複合サービス事業 |
| ☐ 鉱業、採石業、砂利採取業 | ☐ 運輸業、郵便業 | ☐ 宿泊業、飲食サービス業 | ☐ その他サービス業 |
| ☐ 建設業 | ☐ 卸売業、小売業 | ☐ 生活関連サービス業、娯楽業 | ☐ 公務 |
| ☐ 製造業 | ☐ 金融業、保険業 | ☐ 教育、学習支援業 | ☐ その他 |

問 3 貴社・貴団体の従業員数（正規社員数）についてお答えください。（あてはまるもの 1 つにマーク）

- | | | |
|---|---|---------------------------------------|
| ☐ 50 名未満 | ☐ 50 名以上 100 名未満 | ☐ 100 名以上 500 名未満 |
| ☐ 500 名以上 1,000 名未満 | ☐ 1,000 名以上 5,000 名未満 | ☐ 5,000 名以上 |

→裏面に続く

以降の質問はアンケートに同封しているリーフレットを見てからお答えください

問4 福島大学 理工学群 共生システム理工学類が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。(あてはまるもの1つにマーク)

- ☐ ニーズは高い ☐ ニーズはある程度高い ☐ ニーズはあまりない
☐ ニーズはない ☐ わからない

問5 福島大学 理工学群 共生システム理工学類を卒業した学生を採用したいと思いますか。(あてはまるもの1つにマーク)

- ☐ ①採用したい ☐ ②採用しない

問6 問5で①を選択した方に質問です。単年度で採用可能と思われる人数は何人ですか。(あてはまるもの1つにマーク)

- ☐ 1人
☐ 2人
☐ 3人
☐ 4人
☐ 5人以上
☐ 人数は未確定だが、最低1人

問7 福島大学 理工学群 共生システム理工学類について、期待する点や、ご要望等がございましたらご自由にお書きください。

※宜しければ貴社名をお教えてください。こちらは、どの企業にご返送いただいたかを把握するための質問であり、アンケートの回答は統計的に処理され、特定の企業・団体が識別できる情報として公表されることはありません。(ゴム印の押印でも問題ございません)

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

福島大学 理工学群 共生システム理工学類に関するアンケート

福島大学では、2025年4月に「理工学群 共生システム理工学類」の入学定員の増員を構想中です。「リーフレット」をご覧の上、同学類への採用意向に関する調査にご協力をお願いします。なお、この調査の結果は、統計資料としてのみ用い、他の用途に使用することはありません。また、計画は予定であり、今後変更となる可能性があります。

※このアンケート調査は福島大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。

※本アンケートおよびリーフレットに記載されている内容については予定であり、変更される可能性があります。

このアンケートはお一人につき、一回までとなります。 **必須**

☐ 同意する

入力してください

未入力の項目があります

◆貴社・貴団体についてお教えてください。

問1 貴社・貴団体の代表所在地をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク） **必須**

☐ 北海道	☐ 青森県
☐ 岩手県	☐ 宮城県
☐ 秋田県	☐ 山形県
☐ 福島県	☐ 茨城県
☐ 栃木県	☐ 群馬県
☐ 埼玉県	☐ 千葉県
☐ 東京都	☐ 神奈川県
☐ 新潟県	☐ 富山県
☐ 石川県	☐ 福井県
☐ 山梨県	☐ 長野県
☐ 岐阜県	☐ 静岡県
☐ 愛知県	☐ 三重県
☐ 滋賀県	☐ 京都府
☐ 大阪府	☐ 兵庫県
☐ 奈良県	☐ 和歌山県
☐ 鳥取県	☐ 島根県

☐ 岡山県	☐ 広島県
☐ 山口県	☐ 徳島県
☐ 香川県	☐ 愛媛県
☐ 高知県	☐ 福岡県
☐ 佐賀県	☐ 長崎県
☐ 熊本県	☐ 大分県
☐ 宮崎県	☐ 鹿児島県
☐ 沖縄県	

問2 貴社・貴団体の業種についてお答えください。（あてはまるもの1つにマーク） **必須**

☐ 農業、林業
☐ 漁業
☐ 鉱業、採石業、砂利採取業
☐ 建設業
☐ 製造業
☐ 電気・ガス・熱供給、水道業
☐ 情報通信業
☐ 運輸業、郵便業
☐ 卸売業、小売業
☐ 金融業、保険業
☐ 不動産業、物品賃貸業
☐ 学術研究、専門・技術サービス業
☐ 宿泊業、飲食サービス業
☐ 生活関連サービス業、娯楽業

☐ 教育、学習支援業

☐ 医療、福祉

☐ 複合サービス事業

☐ その他サービス業

☐ 公務

☐ その他

問3 貴社・貴団体の従業員数（正規社員数）についてお答えください。（あてはまるもの1つにマーク） **必須**

☐ 50名未満

☐ 50名以上100名未満

☐ 100名以上500名未満

☐ 500名以上1,000名未満

☐ 1,000名以上5,000名未満

☐ 5,000名以上

次へ

戻る

問4 福島大学 理工学群 共生システム理工学類が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。（あてはまるもの1つにマーク）

必須

☒ ニーズは高い	☐ ニーズはある程度高い
☐ ニーズはあまりない	☐ ニーズはない
☐ わからない	

問5 福島大学 理工学群 共生システム理工学類を卒業した学生を採用したいと思いませんか。（あてはまるもの1つにマーク）

必須

☒ 採用したい	☐ 採用しない
--	-----------------------------

問6 単年度で採用可能と思われる人数は何人ですか。（あてはまるもの1つにマーク）

必須

☐ 1人	☐ 2人
☐ 3人	☐ 4人
☐ 5人以上	☐ 人数は未確定だが、最低1人

問7 福島大学 理工学群 共生システム理工学類について、期待する点や、ご要望等がございましたらご自由にお書きください。

任意

※宜しければ貴社名をお教えてください。こちらは、どの企業にご返送いただいたかを把握するための質問であり、アンケートの回答は統計的に処理され、特定の企業・団体が識別できる情報として公表されることはありません。

任意

送信

戻る